

構造特記仕様書2010年度版

§1 一般事項

選択項目は○印を適用し、◎印が無い場合は \* 印を適用する。  
○ 印が複数ある場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書

2) 設計図

3) 標準図

○鉄筋コンクリート構造配筋標準図

○鉄骨工作標準図

●鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

●高強度せん断補強筋施工仕様書

●鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

4) 仕様書

○公共建築協会

 \* 日本建築家協会 )

5) 日本建築学会標準仕様書 , JASS5 , JASS6

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。

第三者機関による検査・試験費用は工事費に(◎含む

 ●含まない )

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は( ● 意匠図

 ● 構造図

 ◎設備図 ) による。

1-7 その他

§2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート			
X	●ルート1	●ルート2	●ルート3	●
Y	●ルート1	●ルート2	●ルート3	●

2-2 鉄筋の継手及び定着

構造計算ルート別による主筋等の継手重ね長さや柱に取り付く梁の定着長さ

● 建築基準法施行令第73条（政令第73条）による仕様規定

● 日本建築学会 JASS5（2009）、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説

● 日本建築学会 RC規準2010

XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5（2009）、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2010とすることができる。

§3 仮設工事、土工事

3-1 山留め、根切り

3-2 埋戻し土、盛土、残土処分

埋戻し土

◎根切り土の中の良土

 ● 搬入良土

盛土

◎根切り土の中の良土

 ● 搬入良土

残土処分

● 場内均地し

 ◎場外搬出処分

◎自由

 ●指定場所 )

§4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業（単位mm）

場 所		捨てコンクリート厚さ	※（1）		厚 さ
			A：砕石	B：割栗石	
基礎	独立、布	●50 ●60 ●100	●A ●B	●60 ●100 ●150 ●	
	ベタ	◎50 ●60 ●100	◎A ●B	●60 ◎100 ●150 ●	
地中梁		◎50 ●60 ●100	◎A ●B	●60 ◎100 ●150 ●	
	構造スラブ	●50 ●60 ●100	●A ●B	●60 ●100 ●150 ●	
土間スラブ	屋内	●50 ●60 ●100	◎A ●B	●60 ◎100 ●150 ●	
	屋外	●50 ●60 ●100	◎A ●B	●60 ◎100 ●150 ●	

注（1）アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。

(2) 端部aは100以上とする。



4-2 設計地耐力

長期 30 kN/m<sup>2</sup> 短期 60 kN/m<sup>2</sup>

地耐力載荷試験

● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) \* 行わない

4-3 地盤改良

● 無筋コンクリート地業

● 締固め工法

 ◎ 深層混合処理工法

● セメント系固材攪拌

● 圧密排水工法

●

[ ● 載荷試験

 ◎ 一軸圧縮試験 ] ◎ 行う ( 5箇所) \* 行わない

[ ◎ 六価クロム溶出試験 ] ◎ 行う \* 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭

1) 杭種

● PHC杭

● A種

● B種

● C種

●

● ST杭

● A種

● B種

● C種

●

● 小口径鋼管杭

● t

● 4.5mm

●

●

● PRC杭

● I種

● II種

● III種

● IV種

● 部杭

● A種

● B種

● C種

●

2) 工法

● 打撃工法

● 油圧ハンマー

● ディーゼルハンマー

● 埋込み工法

● プレボーリングセメントミルク注入工法

● プレボーリング拡大根固め工法（認定工法）

杭周固定液

\* あり

● なし

● 中掘拡大根固め工法（認定工法）

● ETP-G工法（性能証明 GBRC 第09-19号（改3））

3) 杭径、設計耐力、本数表

杭 径（底底部）mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備 考
( )					
( )			杭状図による		
( )					
( )					

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強

● かご筋

● スタッド溶接

● 杭外周溶接

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法

● アースドリル工法

● 底底アースドリル工法

● リバース工法

● オールケーシング工法 ( ● ベノト工法 ● )

● BH工法

●

2) 杭径、設計耐力、本数表（底底部は施工径を示す）

杭 径（底底部）mm	管厚 mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備 考
( )						
( )						
( )						
( )						
( )						

3) 杭先端深さ GLー m

4) 孔壁測定（2方向）

\* 行う ( ● 全数 ● % ) ● 行わない

5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。

コンクリート	Fc	( ● 普通ポルトランドセメント	● 高炉セメントB種 )	
鉄筋	● D 以下	SD295A	● D 以上	SD345
	● D 以上	SD390		
鋼管（リブ付）	● SKK400	● SKK490		

4-6 杭打地業共通事項

1) [ ● 杭長決定用先行杭

● 試験据

 ● 行う ( 1本) ● 行わない

2) 載荷試験 ● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) \* 行わない

3) SL差布 ● 行う \* 行わない

§5 鉄筋工事

5-1 材種

種 類	径	継 手
◎SD295	D 16 以下	◎重ね継手

●スパイラル

●工場溶接

| ◎SD345 | D 19 以上 | ●重ね継手 |

◎溶接継手

●機械継手( 級)

| ●SD390 | D 以上 | \*溶接継手 |

●機械継手( 級)

溶接継手 ◎ ガス溶接 ● 突き合せ溶接（D16以下は重ねアーク溶接でも可）

5-2 溶接部の検査（第三者機関による）

● 抜取り検査

● 引張り試験（JISZ3120）

1検査ロットにつき ● 3本 ●

◎ 超音波探傷試験（JISZ3062）

● 熱間押抜き試験

1検査ロットにつき ● 30箇所 ●

○ 不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。

1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数量で200箇所以内

5-3 梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品（評定品）を使用する。

5-4 その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ◎ ①一般 ● ②地反力を受ける とする。

鉄筋の組立は適切な位置にスパーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。

コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。

コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1 設計基準強度（N/mm<sup>2</sup>）

1) セメント

◎普通ポルトランドセメントJISR5210 ● 高炉セメントB種

● 低熱ポルトランドセメントJISR5210 ●

2) 粗骨材

● 砂利 ◎ 砕石 ● 高炉スラグ骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材

最大径（mm）◎ 20 ● 25 ● 40

3) 躯体（使用区分は設計図の軸組図に示す）

◎ 普通コンクリート

● Fc18 ◎ Fc21 ◎ Fc24 ● Fc27 ● Fc30 ● Fc ● Fc

● 軽量コンクリート ( \* 1種 ● 2種 気乾単位容積質量 \*18.5 ● )

● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc

4) 土間コンクリート ◎ Fc 21 （ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする）

5) 捨てコンクリート ◎ Fc 18

6) 防水押さえコンクリート ● Fc ● LFc （気乾単位容積質量 \*18.5 ● ）

7) かさ上げコンクリート ● Fc ● LFc （気乾単位容積質量 \*18.5 ● ）

6-2 混和材 ● AE減水剤 ◎ 高性能 AE 減水剤 ● 躯体防水材 ● 膨張材

6-3

箇 所	基礎、地中梁	一 般			備 考
ス ラ ン プ c m	15	18			
水セメント比 %	50以下				60以下
単 位 水 量 k g / m <sup>3</sup>	185以下				185以下
単位セメント量 k g / m <sup>3</sup>	300以上				270以上

6-4 試験（躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う）

1) 骨材 [ ( ◎ 塩分含有量 ◎ アルカリシリカ反応性 ) ] ◎ 行う ● 行わない

2) フレッシュコンクリート [ ( ◎ スランプ ◎ 空気量 ) ] ◎ 行う ● 行わない

3) 躯体のせき取り外し時期決定圧縮試験 ◎ 行う ● 行わない

4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ◎ 行わない

5) マスコンクリートのひび割れ照査（温度応力解析） ● 行う ◎ 行わない

6-5 調合（補正値は工事費に含む）

計画供用期間の級（ ）は耐久設計基準強度 F d

● 短期（18） ◎ 標準（24） ● 長期（30） ● 超長期（36）

調合管理強度 F m = M a x { ( F g , F d ) + S S = 3 ~ 6

材齢28日の調合強度 F は下記の両式を満足するものとする。

F ≥ F m + 1. 7 3 σ F ≥ 0. 8 5 F m + 3 σ

6-6 せき板及び支柱の在置期間（普通ポルトランドセメントの場合）

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリート	15℃以上	3日	17日
の材齢による	5℃以上	5日	25日
場合	0℃以上	8日	28日
圧縮試験による場合	5N/mm <sup>2</sup>	0.85Fcまたは12N/mm <sup>2</sup>	設計強度

6-7 住宅性能表示

劣化等級 ● 等級2 ● 等級3

劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図（図）2-7かぶり厚さが変わる場合があるので注意すること。

6-8 Fc60を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書による。

§7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	※シ ダイヤ	内ダイヤ	大梁	ブレス	小梁、他
一般構造用圧延鋼材	◎SS400 ●				○		○
溶接構造用圧延鋼材	●SM400A ● SM490A						
建築構造用圧延鋼材	●SN400A ●						
	●SN400B ● SN490B		○				
	●SN400C ◎SN490C	○					
一般構造用角形鋼材	◎STKR400 ● STKR490						
冷間成形角形鋼管	●BCR295 ●						
	●BCP235 ● BCP325						
熱間成形角形鋼管	●SHC400B ● SHC400C						
	●SHC490B ● SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	◎STK400 ● STK490						○
一般構造用軽量形鋼	◎SSC400 ●						○

7-2 高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	◎S10T 全般
JIS形高力ボルト	●F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	◎F8T 母材が亜鉛メッキされている部分

7-3 普通ボルト、アンカーボルト

1) 材質 ◎ SS400 ● SS490（M 以上）

● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490（ABMはM24以上）

2) 大臣認定柱脚（メーカー仕様による） ● 使用する ◎ 使用しない

7-4 頭付スタッド

径	長 さ（mm）	使 用 箇 所
16 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
19 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
22 φ	● 100 ● 120 ● 150 ●	

7-5 溶接材料

1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。

2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スクラップ形状 ◎ スクラップ工法 ● ノンスクラップ工法

7-7

	柱		梁
フランジ	● 高力ボルト	● 現場溶接	◎ 高力ボルト ● 現場溶接
ウェブ	● 高力ボルト	● 現場溶接	◎ 高力ボルト ● 現場溶接

7-8 デッキプレート（単位 mm）

1) 床用 高さ ● 板厚 ●

2) 合成スラブ用 高さ ● 50 板厚 ● 1.2

3) 型枠用 高さ ● 板厚 ● 形版 タイプ

4) 防錆処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27

7-9 錆止め塗装（工場塗 \* 2回 \* 1回、現場タッチアップ程度とする）

1) 素地こしらえ ◎ ケレン ● プラスト

2) 錆止め塗料

通用	塗 料	種 別	標準膜厚	
室外	室内			
● *	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674	35μm	
●	◎一般用錆止めペイント	JISK5621		◎1種 ● 2種
● *	鉛丹錆止めペイント	JISK5622		● 1種 ● 2種
* ●	シアナミド鉛錆止めペイント	JISK5625		● 1種 ● 2種

3) 溶融亜鉛メッキ ◎ 行う ● 行わない

7-10 溶接部の検査（受入検査） \* 行う ● 行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者（元請）との直接契約による。

2) 第三者検査機関は（社）日本溶接協会によるCIW検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。

3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。

4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。

5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2008により、合格判定は7. 2. 1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。

6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表5. 1溶接箇所数の数え方による。

7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。

a) 工場溶接の場合

i. 検査ロットは各部、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。

ii. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。

iii. サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。

b) 現場溶接の場合

i. 全数検査とする。

8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。

9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」等を参考にする。

7-11 鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定（グレード）					
S	H	M	◎R	J	

§8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1 コンクリートブロック

1) 種類 ● A種 ● B種 ◎ C種

2) 厚さ mm ◎ 100 ● 120 ◎ 150 ● 190

8-2 ALCパネル

1) 使用箇所 ● 床 ● 屋根 ◎ 外壁 ● 内壁

2) 厚さ mm ● 75(80) ◎ 100 ● 120 ● 150 ● 175

3) 外壁取り付け構法

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	● スライド構法		
	◎ ロッキング構法		
横	● カバープレート構法		
	● ボルト止め構法		

8-3 押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さmm ● ●

方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● スライド構法		

8-4 PCa板

1) 床及び屋根 ● 床 ● 屋根

● PCa板単独 厚さmm ● ●

● 合成板

PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備 考

2) 外壁 厚さ mm ● ●

工事名

岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事

No.

S-01

図面名

構造特記仕様書

縮尺

A1:1/50  
A3:1/100

岡山市

都市整備局 住宅・建築部 公共建築課

令和5年12月

課長

課長補佐

係長

課員

担当者

承認

検図

製図

土田

土田

藤原

株式会社やなぎ建築設計事務所  
岡山県知事登録 第1851号  
一級建築士登録 第308118号 土田 利行  
〒760-0292  
岡山市中区平井109-1  
TEL 086-238-8120

## 鉄筋コンクリート構造配筋標準図

設計図書に記載なき場合は本標準図による。

### § 1 一般共通事項

#### 1. 1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ 角 度	折曲げ図	折曲げ内法直径 (D)			使用箇所
		SD295A D16以下	SD295B SD345 D19～D38	SD390 D19～D38	
		D16以下	D19～D38	D19～D38	
180°					柱・梁の主筋及び杭基礎の ベース筋並びにD16以上の鉄筋
135°					あばら筋、帯筋、スパイラル 筋、D13以下の鉄筋
90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	T形及びL形の梁のあばら筋
135° 及び 90°					幅止め筋
90° 以下		4 d 以上 (5 d 以上)	6 d 以上 (6 d 以上)	8 d 以上 (8 d 以上)	その他の鉄筋

(注) 1. Dは、曲げ内法直径  
2. dは、呼び名に用いた数値  
3. 片持ちスラブ先端、端部の自由端側の角縁で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。  
4. SD390は、( ) 内を適用する。

#### 1. 2 鉄筋の継手

(1) 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（「鉄筋の継手の構造方法を定める件」(平成12年5月31日 建設省告示第1463号)に適合する機械式継手）とし、適用は特記による。

(2) 鉄筋の溶接は、アーク溶接とし、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）7.6.5[部材の組立]（d）及び7.6.7[溶接施工]格者]に準じ、工事に相応した技量を有する者とする。

(3) 重ね継手は、次による。

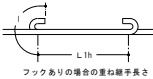
なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。

1) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、突起による。特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と下記表の重ね継手長さのうち大きい値とする。

2) 1) 以外の鉄筋の重ね継手の長さは、下記表による。

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L1(フックなし)	L1h(フックあり)
SD295A SD295B	18	45 d	35 d
	21	40 d	30 d
	24、27	35 d	25 d
	30、33、36	35 d	25 d
SD345	18	50 d	35 d
	21	45 d	30 d
	24、27	40 d	30 d
	30、33、36	35 d	25 d
SD390	21	50 d	35 d
	24、27	45 d	35 d
	30、33、36	40 d	30 d

(注) 1. L1、L1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ  
2. フックありの場合のL1hは、下図に示すようにフック部分1を含む。  
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



フックありの場合の重ね継手長さ

#### 1. 3 隣合う継手の位置

(1) 隣合う継手の位置は下記表による。但し、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。

なお、先組込み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一面所に設ける場合は、特記による。

重ね 継手	フックありの場合	
	フックなしの場合	
圧 接 継 手	—	
機 械 式 継 手	—	

#### 1. 4 鉄筋の定着

##### 1. 4. 1 鉄筋の定着長さ

(1) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は50d）と下記表の定着長さのうち大きい値とする。

(2) (1) 以外の鉄筋の定着の長さは、下記表による。

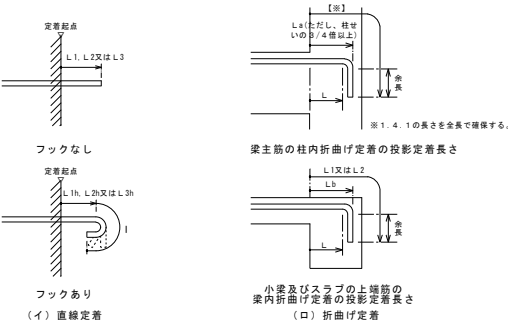
鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	フックなし		フックあり			
		L1	L2	L3		L3h	
		小梁	スラブ	L1h	L2h	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45 d	40 d	35 d	30 d		
	21	40 d	35 d	30 d	25 d		
	24、27	35 d	30 d	25 d	20 d		
	30、33、36	35 d	30 d	25 d	20 d		
				35 d	30 d		
SD345	18	50 d	40 d	35 d	30 d	10 d	—
	21	45 d	35 d	30 d	25 d		
	24、27	40 d	35 d	30 d	25 d		
	30、33、36	35 d	30 d	25 d	20 d		
				35 d	30 d		
SD390	21	50 d	40 d	35 d	30 d		
	24、27	45 d	40 d	35 d	30 d		
	30、33、36	40 d	35 d	30 d	25 d		

(注) 1. L1、L1h：2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ  
L2、L2h：2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ  
3. L2、L2h：小梁及びスラブの下部筋の直線定着の長さ。ただし、垂直筋スラブ及びこれを受ける小梁を除く。  
4. L3h：小梁の下部筋のフックあり定着の長さ  
5. フックあり定着の場合には、1. 4. 2に示すようにフック部分1を含む。また、中間部での折曲げは行わない。  
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

##### 1. 4. 2 定着の方法

(1) 定着の方法は下図による。

(2) 仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さとし、1. 4. 1のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を1. 4. 1に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下記表に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上）をのみ添える。

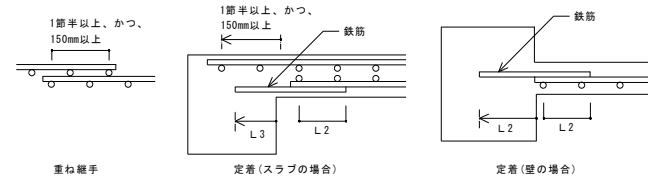


鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 F <sub>c</sub> (N/mm <sup>2</sup> )	L <sub>a</sub>	L <sub>b</sub>
SD295A SD295B	18	20 d	15 d
	21	15 d	15 d
	24、27	15 d	15 d
	30、33、36	15 d	15 d
SD345	18	20 d	20 d
	21	20 d	20 d
	24、27	20 d	15 d
	30、33、36	15 d	15 d
SD390	21	20 d	20 d
	24、27	20 d	20 d
	30、33、36	20 d	15 d

(注) 1. L<sub>a</sub>：梁全長の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）  
2. L<sub>b</sub>：小梁及びスラブの上部筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）  
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

##### 1. 4. 3 溶接金網の継手及び定着

(1) 溶接金網の継手及び定着は下図による。なお、L2及びL3は、1. 4. 1の（注）による。



##### 1. 5 鉄筋の最小かぶり厚さ及び間隔

###### 1. 5. 1 鉄筋の最小かぶり厚さ

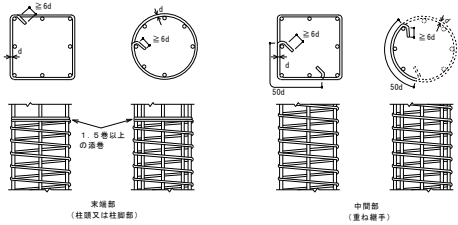
(1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下記表による。

(2) 貫通孔に接する鉄筋かぶり厚さは最小かぶり厚さ以上とする。

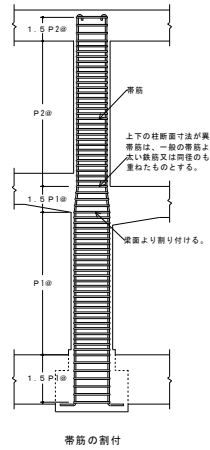
(3) 柱、梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

構 造 部 分 の 種 別				最小かぶり厚さ
土 に 接 し な い 部 分	スラブ・耐力壁 以外の壁	仕 上 げ 有 り		20
		仕 上 げ な し		30
	柱 梁	屋 内	仕上りあり	30
			仕上りなし	30
	耐力壁	屋 外	仕上りあり	30
			仕上りなし	40
	擁 壁 、 耐 圧 スラ ブ			40
	土 に 接 す る 部 分			40
基礎、擁壁、耐圧スラブ			60	
煙突等高熱を受ける部分			60	

(5) スパイラル筋の継手及び定着



(6) 柱に取り付く梁に段差がある場合、帯筋の間隔を1.5P1@又は1.5P2@とする縦断面は、その柱に取り付くすべての梁を考慮して適用する。なお、P1@、P2@は、特記された帯筋の間隔を示す。



§ 4 梁

4. 1 大ばり筋の継手、定着及び余長

4. 1. 1 一般事項

(1) 継手中心位置は、下記による。

上端筋 ー 中央 $l_0/2$ 以内  
下端筋 ー 柱面より梁せい(D)以上離し、 $l_0/4$ を加えた範囲以内

(2) 梁主筋は原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことのできない場合は、(3)により柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は右図による。

(3) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。  
なお、定着の方法は、1. 4. 2による。  
上端筋：曲げ降ろす。  
下端筋：原則として曲げ上げる。

(4) 段違いばりは、図4. 1. 1によることができる。

(5) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端(図4. 1. 2の●印)にある場合はフックを付ける。ただし、基礎梁を除く。

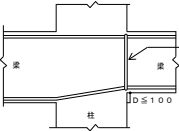


図4. 1. 1

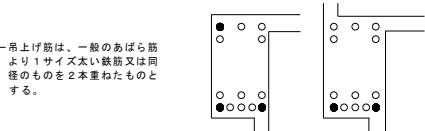


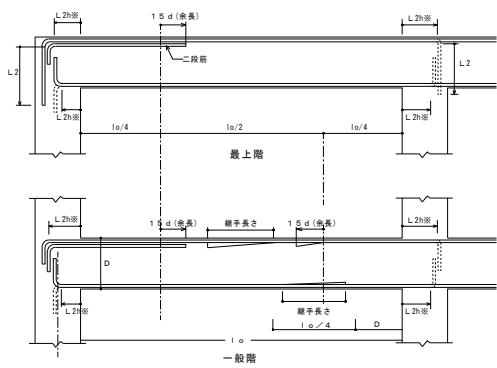
図4. 1. 2

4. 1. 2 ハンチのない場合

(1) 継手中心位置は、下記による。

上端筋 ー 中央 $l_0/2$ 以内  
下端筋 ー 柱面より梁せい(D)以上離し、 $l_0/4$ を加えた範囲以内

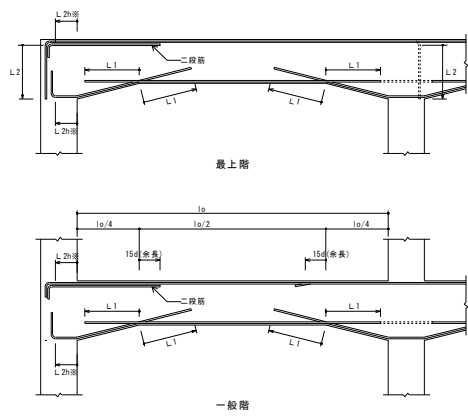
(2) 4. 1. 1(5)で定めた鉄筋には、フックを付ける。



(注) 1. 印は、継手及び余長を示す。  
2. 縦筋は柱内定着の場合を示す。  
※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

4. 1. 3 ハンチのある場合

(1) 4. 1. 1(5)で定めた鉄筋には、フックを付ける。



(注) 1. 印は、継手及び余長を示す。  
2. 梁内定着の端部下端筋が確定するときは、.....のように引き通すことができる。  
3. 縦筋は柱内定着の場合を示す。  
※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

4. 2 あばら筋、腹筋及び幅止め筋

4. 2. 1 一般事項

(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。

(2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1000@程度とする。

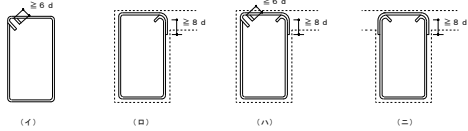
(3) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。

(4) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、特記による。特記がなければ、L2とする。

4. 2. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置

(1) 形は、下図(イ)とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。

(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。

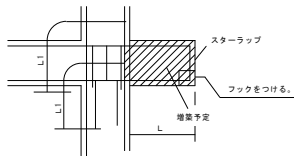


4. 3 増築予定がある場合

(1) 圧接の場合 $L=1,000$ 、重ね継手の場合 $L=L1+0.5L1$

(2) 増築取合せ部分の梁主筋は増築用梁まで延長することなく柱にアンカーする。

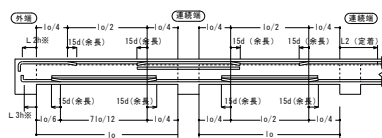
(3) 下図ハッチ部分はスタイロフォームを入れてコンクリートを打設又はラスモルタルとし現場の状況に応じて指示する。



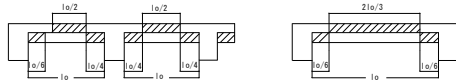
4. 4 小梁及び片持ち梁

4. 4. 1 小梁

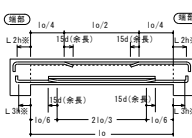
(1) 連続小梁の場合



(注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 図示のない事項は、基礎梁及び大ばりの項による。  
3. 継手中心位置は下図の斜線部分とする。  
4. 梁せい $h$ が小さく増築で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。  
※ L2h、L3hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

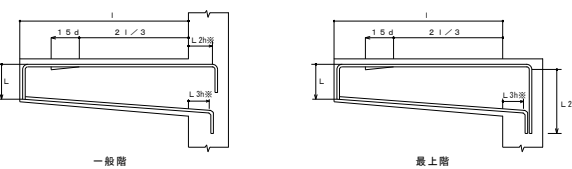


(2) 梁の端部で間隔の異なる場合



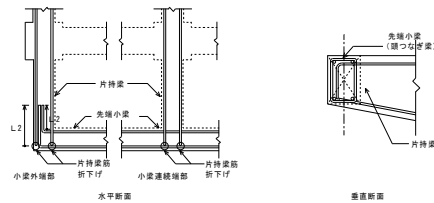
4. 4. 2 片持ち梁

(1) 先端に小梁のない場合



(注) 1. 図示のない事項は、大ばりの項による。  
2. 印は、余長を示す。  
3. 先端の折曲げの長さ $L$ は、梁せい $h$ より十分に厚さを離れた長さとする。  
※ L2h、L3hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

(2) 先端に小梁がある場合



(注) 1. 図示のない場合は、(1)による。  
2. 先端小梁端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。  
3. 先端小梁の連続部は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

§ 5 壁

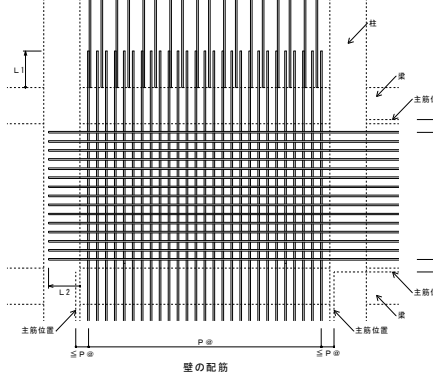
5. 1 壁筋の継手及び定着

(1) 壁配筋の重ね継手はL1、定着の長さはL2とする。

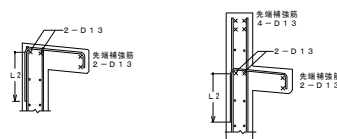
(2) 幅止め筋は、縦横共D10-1,000@程度とする。

(3) 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはいけない。

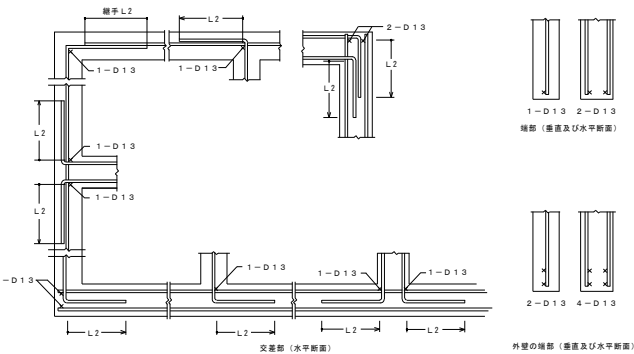
(4) 下図のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。



5. 2 パラベットの配筋



5. 3 交差部及び端部の配筋



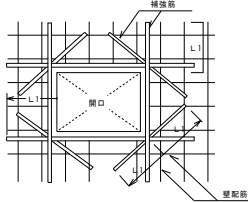
(注) ( ) 内は、土圧等を受ける壁等で、5. 1(2)の場合を示す。

5. 4 壁開口部の補強

(1) 壁開口部の補強は、A形又はB形とし、特記がなければB形とする。ただし、耐震壁を除く。

壁の種別	A 形		B 形	
	補 強 筋	斜 め	補 強 筋	斜 め
W12、W15	1-D13	1-D13	W12、W15	2-D13
W18、W20	2-D13	2-D13	W18、W20	4-D13

(2) 壁開口部補強筋の定着長さ



(3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

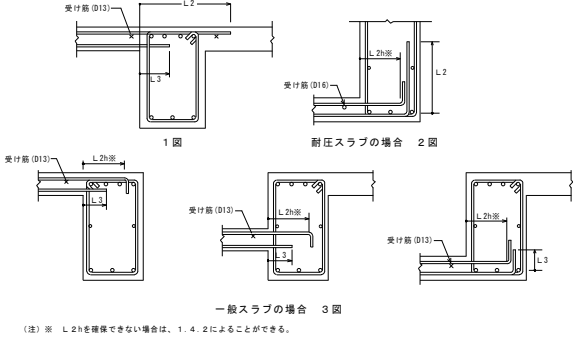
(4) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

§ 6 スラブの配筋

6. 1 スラブ筋の継手及び定着

(1) 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。

(2) 定着長さ及び受け筋は、1図による。ただし、引き通すことができない場合は、3図により梁内に定着する。

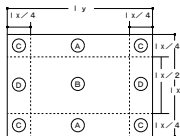


(注) ※ L2hを確保できない場合は、1. 4. 2によることができる。

(3) 継手中心位置は下記表による。

		標準継手位置
上 端 筋	短辺方向	B · D
	長辺方向	A · B
下 端 筋	両方向共	A · C · D

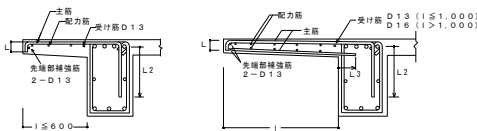
(注) 1. 主筋下端筋継手中心はB、D部分をさけること。  
2. 配筋下端筋継手中心はA、B部分をさけること。



6. 2 スラブの基準配筋

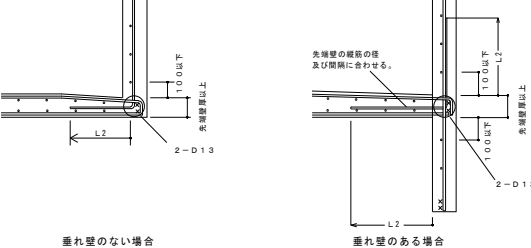
6. 2. 1 片持ちスラブ

(1) 先端に壁がない場合



(注) 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さより十分に厚さを離れた長さとする。  
2. スラブに段差のない場合、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

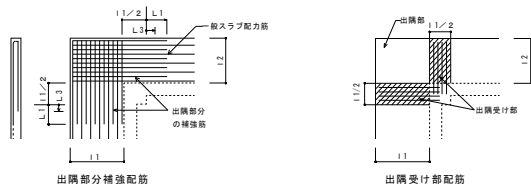
(2) 先端に壁が付く場合



垂れ壁のない場合

垂れ壁のある場合

6. 2. 2 片持ちスラブ(出隅部)

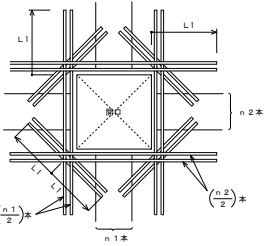


(注) 1. 1/2と2とする。  
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁にL1定着する。

工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事		No. S-03	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第1851号 一級建築士登録 第308118号 土田 利行 〒703-0392 岡山市中区平井1091-1 TEL. 086-238-8120
図面名	RC構造配筋標準図2	縮尺	A1:1/4 A3:1/8	
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和5年12月
課長	課長補佐	係長	課員	担当者
				承認
				検図
				製図
				土田
				土田
				藤原

6. 3 スラブ開口部の補強

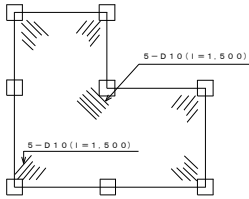
- (1) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合には、スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (i=2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。
- (2) スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



6. 4 その他の補強

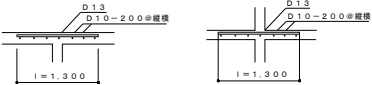
6. 4. 1 屋根スラブ

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



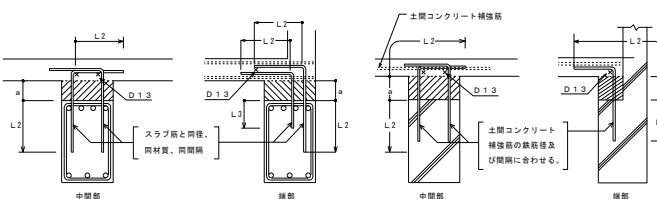
6. 4. 2 壁付きスラブ

- (1) スラブに上端筋がなく、壁が付いている場合には、下図により補強筋を入れる。



6. 4. 3 土間スラブ、土間コンクリートの打継ぎ補強

- (1) 土間スラブの打継ぎ補強

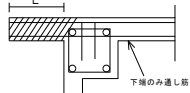


(注) 1. 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。

2. a2が300mm以下の場合に限る。

6. 5 増築予定がある場合

- (1) 継手長さL=L1+0.5L1
- (2) 増築取合せ部分の床主筋は増築用床まで延長することなく梁にアンカーする。
- (3) 右図ハッチ部分はラスモルタルとし現場の状況に応じて指示する。

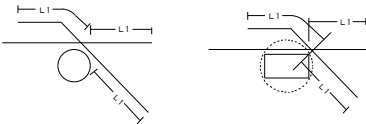
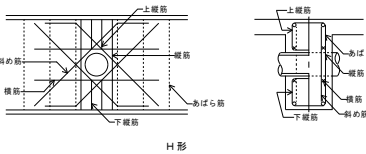


§ 7 梁貫通孔補強

梁貫通孔の補強はこの標準配筋により、孔の形状寸法および配筋種別は特記する。

7. 1 一般事項

- (1) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- (2) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3Dの範囲には設けてはならない。
- (3) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。
- ただし、基礎梁、壁付帯梁は除く。
- (4) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (5) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (6) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは下図による。
- (7) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (8) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (9) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
- なお、リング部は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (10) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中止とする。



7. 2 補強の形式と種類

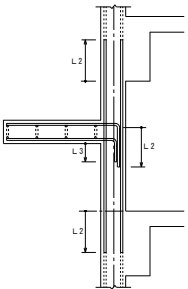
H形配筋					
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4					
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) .....は、一部部分のあばら筋を示す。

§ 8 階段の配筋

8. 1 片持スラブ形階段の基準配筋

片持スラブ形階段の基準配筋	
配筋種別	
配筋図	KA1
	KA2
配筋種別	KA3
	KA4



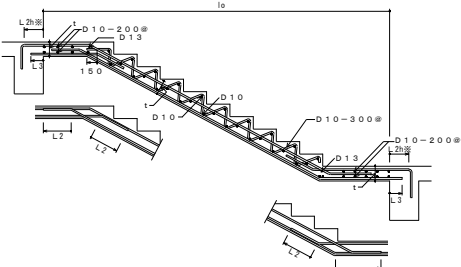
片持スラブ形階段配筋の定着

(注) 1. 階段主筋は、壁の中心線を超えてから壁に下ろす。

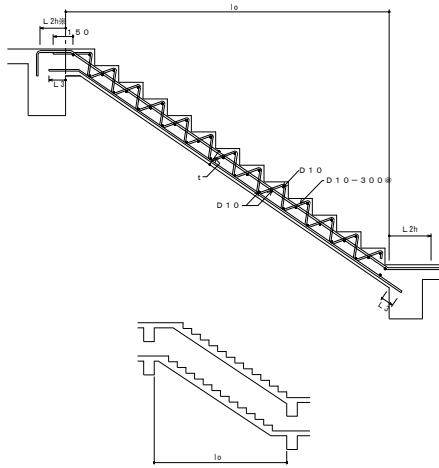
2. スラブ配筋筋の継手及び定着の長さは、1.4.1(2)のL3とする。

8. 1 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

二辺固定スラブ形基準配筋	
配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
KB1	D13-200φ
KB2	D13-150φ
KB3	D13-100φ
KB4	D13、D16-150φ
KB5	D16-150φ
KB6	D16-125φ
KB7	D16-100φ



二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)



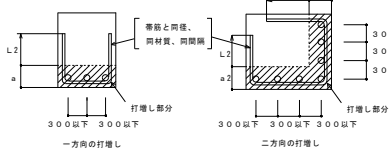
(注) 1. 右図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を適用する。

※ L2aを確保できない場合は、1.4.2によることができる。

二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

§ 8 その他の補強

8. 1 柱の打増し補強

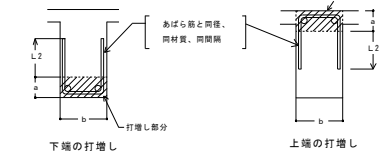


(注) 1. 柱の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

2. 増設と同一方向の補強筋は、等径と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

3. 軸方向の補強間隔は300mm以下とする。

8. 2 梁の打増し補強



(注) 1. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

2. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

3. 軸方向の補強間隔は300mm以下とする。

4. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

5. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

6. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

7. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

8. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

9. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

10. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

11. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

12. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

13. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

14. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

15. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

16. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

17. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

18. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

19. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

20. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

21. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

22. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

23. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

24. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

25. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

26. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

27. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

28. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

29. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

30. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

31. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

32. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

33. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

34. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

35. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

36. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

37. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

38. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

39. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

40. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

41. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

42. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

43. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

44. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

45. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

46. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

47. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

48. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

49. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

50. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

51. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

52. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

53. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

54. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

55. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

56. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

57. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

58. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

59. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

60. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

61. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

62. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

63. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

64. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

65. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

66. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

67. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

68. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

69. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

70. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

71. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

72. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

73. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

74. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

75. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

76. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

77. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

78. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

79. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

80. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

81. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

82. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

83. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

84. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

85. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

86. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

87. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

88. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

89. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

90. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

91. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

92. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

93. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

94. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

95. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

96. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

97. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

98. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

99. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

100. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

101. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

102. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

103. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

104. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

105. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

106. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

107. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

108. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

109. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

110. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

111. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

112. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

113. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

114. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

115. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

116. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

117. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

118. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

119. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同等、同材質、同間隔とし定着長さはL2とする。

120. 梁の打増し幅は、a1、a2が70mm以上の場合の補強を示す。

121.



木造在来軸組工法標準納まり図

§ 1 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 施工の際は本標準図の他、「木造住宅工事共通仕様書(解説付)」(「財」住宅金融普及協会)「木造軸組工法住宅 接合部の設計と金物の取付」(「社」日本木造住宅産業協会)等参照のこと。

(3) 床組 下記●印で選択した床組を適用する

剛な床組

柔な床組

§ 2 金物

(1) 使用する金物は、(財)日本住宅・木造技術センターの定める規格によるZマーク表示品または、これと同等以上のものを使用する。

(2) 接合及び補強をするに当たっては、接合部位の納まりに適した金物を使用すること。

(3) 接合金物の許容耐力一覧表

名 称	記 号	短期許容耐力 (kN)			使用接合具等
		べいまつ類	べいつが類	すぎ類	
太めくぎ	Z N40	0.86	0.77	0.68	
	Z N65				
	Z N90				
スクリーくぎ	Z S50	1.48	1.34	1.17	
	P B-33	11.38	10.40	10.00	六角ボルト M12(1本)
柱脚金物	P B-42	22.76	20.80	20.00	六角ボルト M12(2本)
	S M-12	1.72	1.54	1.36	太めくぎ ZN65(4本)
ひら金物	S M-40	4.30	3.85	3.40	太めくぎ ZN65(12本)
	S T-9	1.72	1.54	1.36	太めくぎ ZN40(4本)
ひねり金物	S T-12				
	S T-15				
折曲げ金物	S F	2.58	2.31	2.04	太めくぎ ZN40(6本)
くら金物	S S	5.16	4.62	4.08	
羽子板ボルト	S B・F・S B・F2 S B・E・S B・E2	5.69	5.20	5.00	六角ボルト M12(1本)
かど金物	C P・L	4.30	3.85	3.40	太めくぎ ZN65(10本)
	C P・T				
山形プレート	V P	5.04	4.56	3.92	太めくぎ ZN90(8本)
短ざく金物	S	5.69	5.20	5.00	六角ボルト M12(2本)
かね折り金物	S A				
かすがい	C-120	1.27	1.18	1.08	
	C-150				
	C C-120				
手違いかすがい	C C-150				
	H D-B10				
	S-H D10				六角ボルト M12(2本) 又はラグスクリュー・LS12(2本)
引き寄せ金物	H D-B15	17.07	15.60	15.00	六角ボルト M12(3本) 又はラグスクリュー・LS12(3本)
	S-H D15				
	H D-B20				六角ボルト M12(4本) 又はラグスクリュー・LS12(4本)
	S-H D20	22.76	20.80	20.00	
	H D-B25			六角ボルト M12(5本) 又はラグスクリュー・LS12(5本)	
	S-H D25				
	H D-N5	7.56	6.84	5.88	太めくぎ ZN90(6本)
	H D-N10	12.60	11.40	9.80	太めくぎ ZN90(10本)
	H D-N15	20.16	18.24	15.68	太めくぎ ZN90(16本)
	H D-N20	22.68	20.52	17.64	太めくぎ ZN90(20本)
	H D-N25	29.48	26.68	22.93	太めくぎ ZN90(26本)
※ 表値は鋼板添え板による25%割増の値を示す。長期許容せん断耐力の値は表値の1/2とする。					
※ べいまつ類：べいまつ・くろまつ・あかまつ・からまつ・つが					
べいつが類：べいひ・べいつが・ひば・ひのき・もみ					
す ぎ類：とどまつ・えぞまつ・べにまつ・スプルース・すぎ・べいすぎ					
※ ラグスクリュー・LS12は首下長11cm以上とし、柱寸法10.5cm角以上の部材に適用される。					
※ 算出根拠は、日本建築学会発行の「木質構造設計基準・同解説」による。					
アンカーボルト		L = ● 400 ● 450 ● 500			
		L = ● 600 ● 700 ● 800 ● 900 ● 1000			
M12	●				
M16	●				

§ 3 各部構造の施工上の留意点

1 基礎と土台の緊結

(1) アンカーボルトの配置

(a) 筋違いを設けた耐力壁の部分は両端柱の外側下部に近い位置を原則とする

① ホールダウン金物をアンカーボルト(A-70)で緊結する場合

② ホールダウン金物を座金付きボルト(M16W)で土台と緊結する場合

③ 山形プレートで土台と緊結する場合、または金物の無い場合

(b) 構造用合板を張った耐力壁の場合は(c)に準ずる

(c) 隅各部、土台継手及び土台仕口面所の端部

(d) 上記(a)、(b)及び(c)以外の部分においては間隔 2m以内 になるような位置とする

(2) アンカーボルトの施工

(a) アンカーボルトの芯出しは、型板を用いて基準態に正確に合わせる。

(b) アンカーボルトのコンクリート基礎への埋め込み長さはA-60、A-70については360mm以上、A-40については250mm以上とする。

なお、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。

(c) アンカーボルトは、所定の位置に垂直に敷設せられるよう位置出し材を布基礎型枠材に釘打ちし、アンカーボルトを固定してからコンクリートを打設すること。

(d) アンカーボルトは、衝撃などにより曲りが生じないよう、慎重に取り扱う。

また、ねじ部分には、損傷・錆の発生・汚れ等を防止するために布、ビニールテープなどを巻いて養生を行う。

(3) アンカーボルトの定着のチェック法

埋め込み位置のマークを確認する。

(埋込マークの中心ポイント)

2 柱と基礎(土台)との緊結

(a) 柱は、構造計算による引き抜き応力に耐えられるように接合金物(ホールダウン金物)により基礎または土台と緊結する。ホールダウン金物は、柱の下部に締め代を30mm程度とり六角ボルト(M12)、ラグスクリュー(LS12)または太めくぎ(Z N90)にて柱に固定する。

(b) 緊結方法は次による

① ホールダウン用アンカーボルトを用いて直接基礎に緊結する場合

② 座金付きボルト(M16W)を用いて土台と柱を緊結する場合

3 筋違いの仕口

筋違いの仕口は筋違いプレート(B P、B P-2)によって緊結する

4 通し柱

(a) 通し柱は、次のいずれかによる

① 1階から3階に達する通し柱とする。

② 1階から2階までの通し柱と、2階から3階までの通し柱を組み合わせて使用する場合、当該通し柱と管柱とは接合金物で緊結する。

(b) 通し柱に代わる管柱の補強

外周部の主要な隅柱及び構造計算による引抜き応力が大きい2階の柱は、1階の管柱と接合金物(ホールダウン金物)で緊結する。ホールダウン金物の取付けは、次による。

① 上階の柱及び下階の柱にホールダウン金物の取付けは、次による。

② ホールダウン金物は相互に六角ボルト(M12またはM16)を用い緊結する。

工事名

岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事

N o .

S-06

図面名

木造在来標準納図1

縮尺

A1:1/3  
A3:1/4

岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課

令和5年12月

課長

課長補佐

係長

課員

担当者

承認

検図

製図

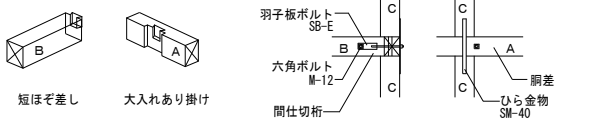
土田

土田

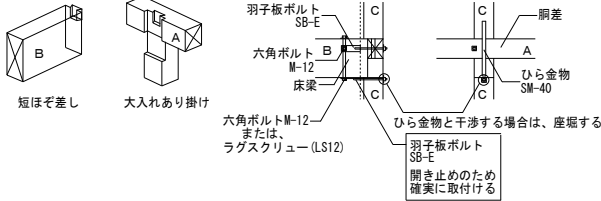
藤原

(2) 「隔柱に準ずる柱」の通し柱と同等以上の耐力を有するような補強方法

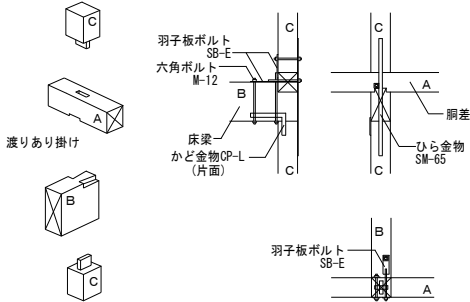
- ① 直交する胴差がほぼ同寸であり、かつ、同一高さで取合う場合  
間仕切桁(B)は胴差(A)に大入れあり掛け、胴差(A)を間仕切桁(B)より羽子板  
ボルト(SB-E)で引寄せる。  
上下管柱は胴差(A)へ短ほぞ差しとし、上下管柱外側にひら金物(SM-40)を当て、  
各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



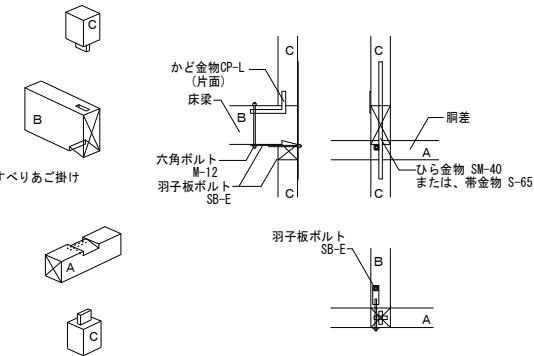
- ② 胴差と直交する梁があり、上端が揃う場合  
床梁(B)は胴差(A)に大入れあり掛け、下階柱には大入れ、胴差(B)を床梁(A)及び管柱(C)  
より羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せる。  
上下管柱は胴差(A)へ短ほぞ差しとし、上下管柱外側にひら金物(SM-40)を当て、各々太め  
くぎ(ZN65)で打ち固める。



- ③ 胴差と直交する床梁が胴差の下側にある場合  
床梁(B)は下階管柱の長ほぞに差し込み、かど金物(CP-L)を片面に当て、太めくぎ(ZN65)で  
打ち、胴差(A)は床梁(B)に渡りあり掛け、床梁(B)を羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せる。  
上階柱は胴差(A)に短ほぞ差し、上下管柱相互は外側にひら金物(SM-40)(長さが足りない場合  
は、帯金物(S-65)を代用する)を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。  
床梁(B)と下階柱とは、かど金物(CP-L)を片面に当て、太めくぎ(ZN65)で打ち固める。

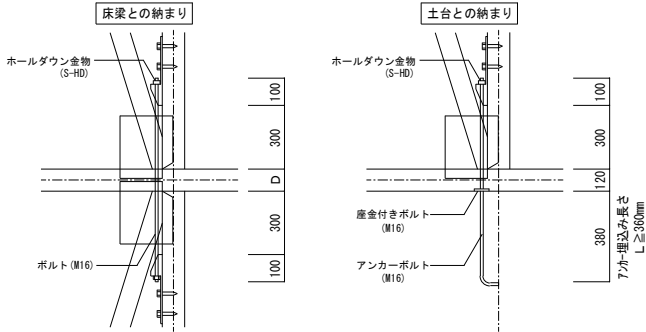


- ④ 胴差と直交する床梁が胴差の上側にある場合  
下階管柱の短ほぞに胴差(A)を差し込み、床梁(B)は胴差(A)にすべりあご掛けとし、胴差  
より羽子板ボルト(SB-E)で引き寄せる。  
上階管柱は床梁(B)へ短ほぞ差しとし、上下管柱相互は外側にひら金物(SM-40)(長さがたりない  
場合は、帯金物(S-65)を代用する)を当て、各々太めくぎ(ZN65)で打ち固める。  
上階管柱と床梁(B)とは、かど金物(CP-L)を片面に当て、太めくぎ(ZN65)で打ち固める。



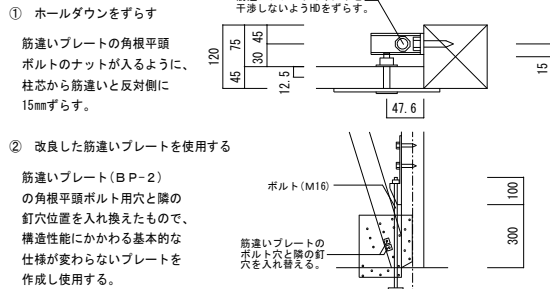
5 ホールダウン金物周辺の納まり

- (1) 筋違いとホールダウン金物の納まり  
筋違いとホールダウン金物は極力重ならないように位置を決定する。  
重なりが出てきた場合には、以下の方法を参考に納まりを決定する。
- (a) ホールダウン金物自体と筋違いの重なり  
ホールダウン金物と横架材間の締め代を長く取り、筋違いと重ならないようにする。  
その場合、座金付きボルト(土台)やアンカーボルト(基礎)、ボルト(床梁等)  
が標準の場合より長くなることに注意する。

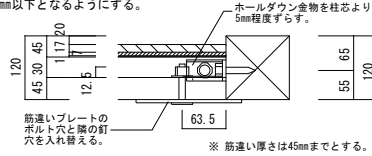


・梁成によるボルトの長さ(mm)		・ボルトの長さ(mm)	
筋違いが上下の 一方にある時	筋違いが上下に ある時	座金付きボルト	アンカーボルト
D+430	D+800	520	900

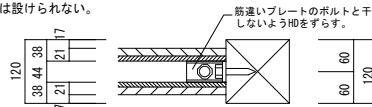
- (b) ホールダウン金物の引寄せボルトと筋違いプレートの角根平頭ボルトのナット部分との重なり  
120mmX120mmの柱に対して 45mmX105mmの筋違いが取り付く場合ホールダウン金物の  
引寄せボルトと筋違いプレートの角根平頭ボルトのナット部分との重なりを防ぐため以下の  
ように納める。ただし、120mm 角未満の場合は施工できないことに注意する。



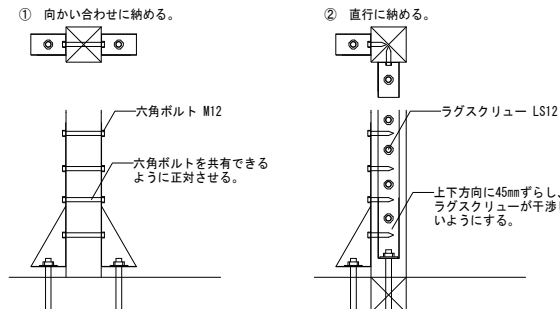
- (c) 折衷壁(壁の片側が真壁)におけるホールダウン金物の納まり  
折衷壁(壁の片側が真壁)の場合、柱芯から筋違い側に5mmずらし、かつ上記  
(b)~②のように改良した筋違いプレートを使用する。  
ただし、筋違い厚さは45mm以下となるようにする。



- (2) 両側真壁の場合のホールダウン金物の納まり  
両側真壁の場合、ホールダウン金物をS-HDとし、また柱のちりを16mm程度にする。  
ただし、この場合筋違いは設けられない。



- (3) 2本のホールダウン金物の納まり  
① 向かい合わせに設ける場合、六角ボルトを共有できるようにする。  
② 直行する場合、ホールダウンの取り付け位置を上下に45mmずらし六角ボルトが重ならないように  
する。この場合欠損が大きいのラグスクリューを使用することが望ましい。

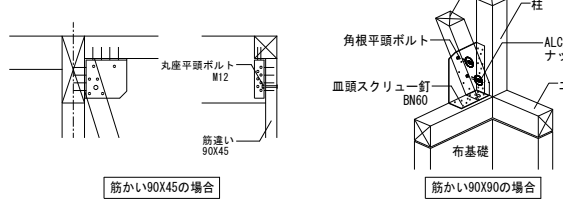


(4) ホールダウンの選定

ホールダウン	ホールダウンのとりつく壁の種類		
	大壁	折衷壁	両面真壁
HD-N	○	×	×
HD-B	○	×	×
S-HD	○	○	○

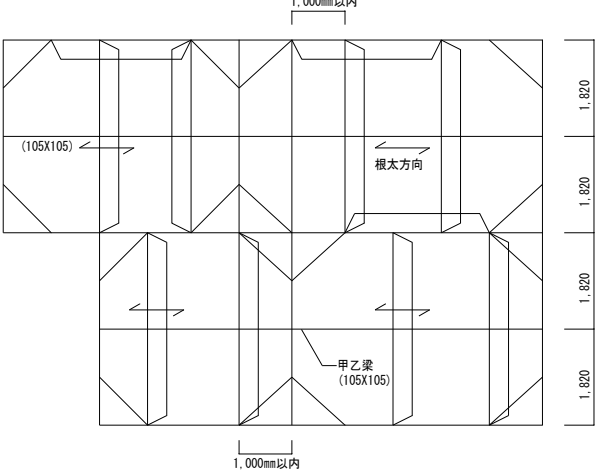
記号 ○ : 使用できる。  
× : 納まらないため、使用できない。  
※ 面材の受材・筋違いが干渉する場合はS-HDを使用する。

(5) 3階建て用筋違い金物



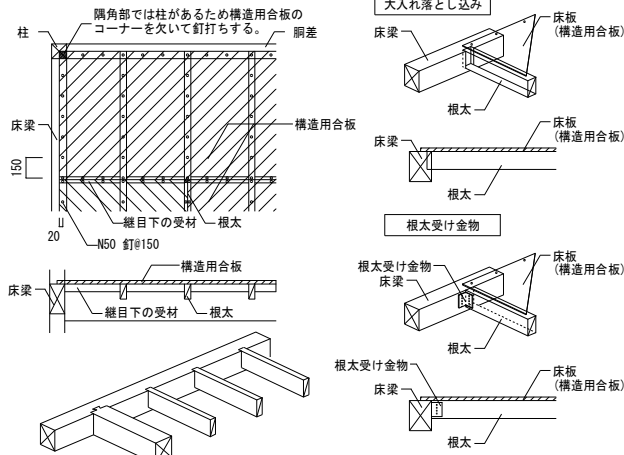
6 床組 2階(3階)床

耐力壁線の交点が不一致の場合は、その階の水平力伝達に有効な横架材を耐力壁線上に設ける。  
ただし、1メートル(約半間)を限度とする。

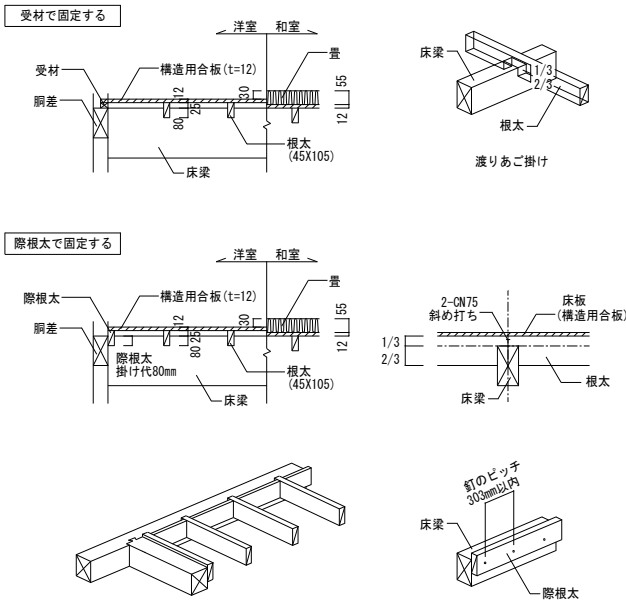


- (1) 水平横面の剛性が十分期待できる床の施工(剛な床組)  
① 種類 : サイズ3×6版以上、厚さ12mm以上の構造用合板を用いる。  
② 張り方 : 構造用合板の長手方向を根太と直交させ、かつ千鳥張りとする。  
構造用合板の継手は、根太上で付き付け継ぎとし、縦目下に受材  
(45mmX45mm程度)を設ける。  
③ 釘打ち : 構造用合板の四周边は釘(N50)を150mm以下で根太または床梁や胴差、  
受材等に平打ちする。  
④ 床根太の寸法は45mmX105mmを標準とし、根太間隔は、455mm以下とする。  
ただし、断面寸法105mmX105mm以上の甲乙梁を1,820mm内外(1間)の間隔  
に梁間・桁行き方向に配置する。  
⑤ 床梁・胴差の仕口補強  
柱と床梁・胴差、床梁と胴差の仕口は、金物、ボルトにより十分緊結補強する。

- (a) 根太と床梁、胴差の上端高さが同じ場合の施工方法  
根太は床梁、胴差に大入れ落とし込みとし、釘(N75,2本)で斜め打ちとするか、  
または、根太受け金物を用いて床梁、胴差に留め付ける。  
この場合、構造用合板を床梁、胴差に釘で直張りする。  
ただし、隅角部では柱があるため構造用合板のコーナーを欠いて釘打ちする。  
なお、この場合、火打ち梁は省略できる。

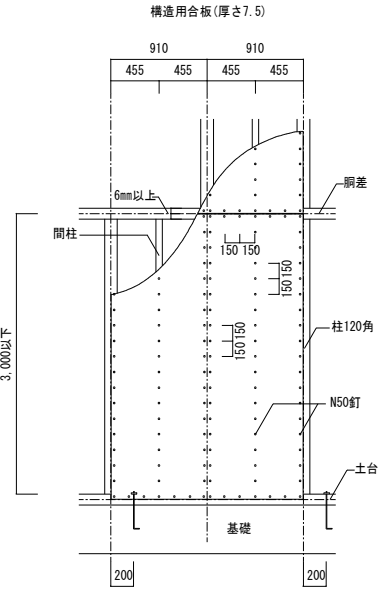


- (b) 根太と床梁、胴差の上端高さが異なる場合の施工方法  
床梁、胴差に直交する根太は渡りあご掛けとし、釘(N75,2本)で斜め打ちとする。  
また、床梁・胴差の際には際根太、または受材を添え付け床板構造用合板の四周边を固定する。  
際根太は床梁・胴差へ釘打ち(N90)間隔303mmで平打ちする。



7 耐力壁(面材)施工例

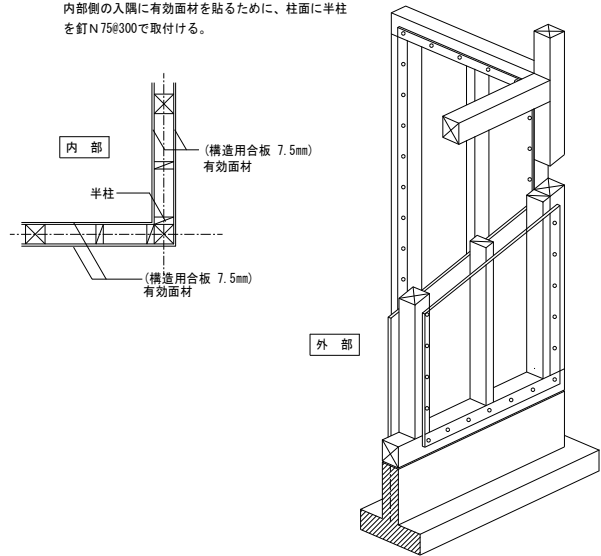
(1) 釘打ち基準



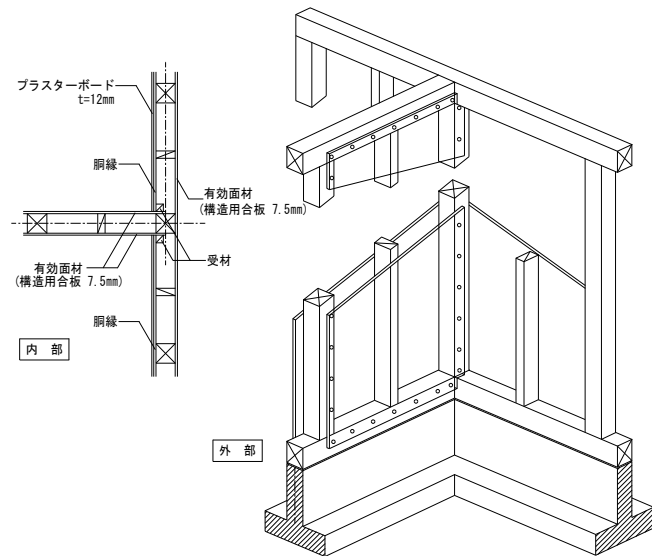
工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事	N o.	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第1851号 一級建築士登録 第308118号 土田 利行 〒710-8282 岡山市中区平井1091-1 TEL.086-238-8120
図面名	木造在来標準納図2	縮尺	A1:1/8 A3:1/16
岡山市	都市整備局 住宅・建設部 公共建築課	令和5年12月	
課長	課長補佐 係長 課員 担当者	承認	検図 製図
		土田	土田 藤原

(2) 標準的な耐力壁(面材)の納まり

(a) 隅角部(屋外・室内側共構造用合板 7.5mmの場合)  
内部側の入隅に有効面材を貼るために、柱面に半柱を釘N75@300で取付ける。

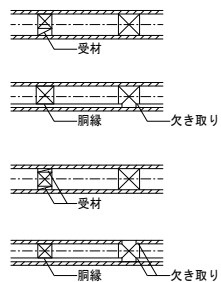


(b) T字部(外壁屋外側・室壁に構造用合板 7.5mmの場合)



(c) 柱の断面寸法が異なる場合の面材の納め方

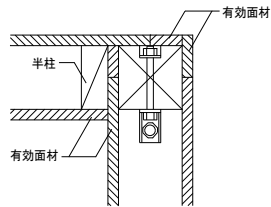
- 柱を外面に合わせる。内壁側は受材で調整し、面材を張る。
- 柱を外面に合わせる。内壁側は柱の一部を欠き取り調整し、面材を張る。
- 柱は芯合わせとし、外壁側、内壁側とも受材で調整し、面材を張る。
- 柱は芯合わせとし、外壁側、内壁側とも柱の一部を欠き取り調整し、面材を張る。



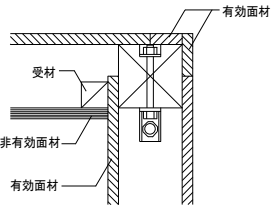
(3) 柱にホールダウン金物を使用する場合の耐力壁(面材)の納まり

(a) 隅角部

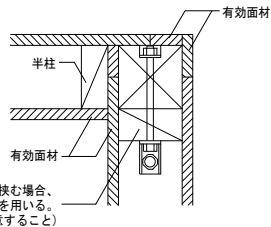
- ホールダウン金物の取り付け柱面と直交する柱面に有効面材を伸ばし、釘打ちする。その上から半柱を釘N75@300で取付け、その半柱に他方向の面材を釘打ちする。



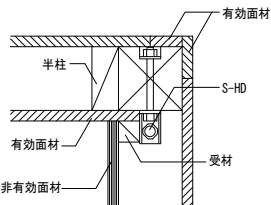
- ホールダウン金物の取り付け柱面と直交する柱面に有効面材を伸ばし、釘打ちする。他方向の非有効面材は受材を設けて取付ける。



- 面材の受材に半柱を釘N75@300で取付け、その半柱に有効面材を釘打ちする。この場合、ホールダウン金物の取付けは六角ボルトを使い、また、その長さに注意する。

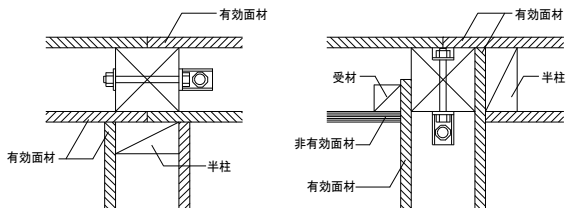


- 面材の受材に半柱を釘N75@300で取付け、その半柱に有効面材を釘打ちする。他方向の非有効面材は受材を設けて取付ける。ただし、ホールダウンと面材が干渉するので、使用するホールダウン金物はS-HDとし、受材の、大きさに注意する。

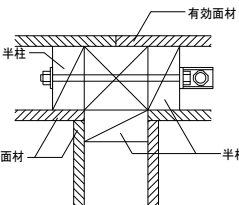


(a) T字部周辺

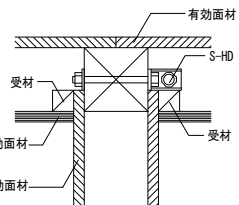
- ホールダウン金物の取り付け柱面と直交する柱面に面材を伸ばし釘打ちする。その上から半柱を釘N75@300で取付け、その半柱に他方向の有効面材を釘打ちする。



- 面材の受材に半柱を釘N75@300で取付け、有効面材を釘打ちする。この場合、ホールダウン金物の取付けは六角ボルトを使い、また、その長さに注意する。

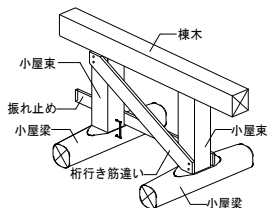


- 有効面材をホールダウン金物に干渉しないように柱面に釘打ちする。他方向の非有効面材は受材を設けて取付ける。ただし、ホールダウンと面材が干渉するので、使用するホールダウン金物はS-HDとし、非有効面材の受材の大きさに注意する。

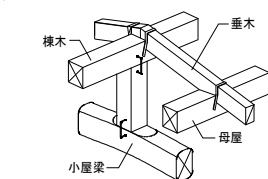


8 小屋組

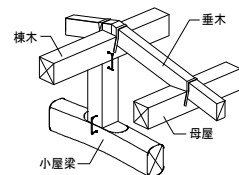
- 小屋火打梁  
火打梁は耐力壁線に囲まれた隅角部に設ける。



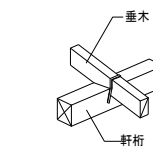
- 小屋筋違い及び桁筋違い・揺れ止め  
小屋組の一体化を図るために、小屋束相互及び束・桁にまたがり筋違い15mm×90mm以上を釘(N50,2本)で平打ちし固定する。



- 垂木  
軒先部や、けらば・棟部の垂木は軒桁・母屋・棟木等の受材とひねり金物(S T)・折曲げ金物(S F)・くら金物(S S)等で緊結する。



- 棟木・母屋  
棟木と第2母屋は、必要に応じて金物等で小屋束に接合する。



- 小屋束  
小屋束下部と小屋束あるいは妻梁・桁は、必要に応じて金物等で接合する。

- 垂木(剛床の場合) 今回工事  
垂木は、ひねり金物のほか、折曲げ金物、L型受金物を使用して緊結する。

工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事				No. S-08	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第1851号 一級建築士登録 第308118号 土田 利行 〒763-8282 岡山市中区平井1091-1 TEL 086-238-8120			
図面名	木造在来標準納図3					縮尺	A1:— A3:—		
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課						令和5年12月			
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図		
					土田	土田	藤原		



SSコラム工法特記仕様書

1. 工法概要

本工法はセメント系固化材を固化材液として現地地盤に注入し、共回り防止翼の左右両端に、円柱状の鋼棒を装着した攪拌装置を用いて混合攪拌することによりソイルセメントコラムを形成する工法である。

2. 特記事項

- (1) コラム径 φ=500mm
- (2) 掘削深度 H=12.00m  
(掘削長が変更となる場合には管理者と協議しトルク計にて確認を行う。)
- (3) 設計基準強度 F<sub>C</sub>=1300kN/m<sup>2</sup>
- (4) 本工事工法は、一般財団法人 日本建築総合試験所で証明された建築技術性能証明取得工法とする。

3. 室内配合試験

- (1) 固化材 セメント系固化材又は、セメントを使用する。
- (2) 室内配合強度の設定と配合量 本施工にあたり、原則として事前に現地土を採取し、室内配合試験を実施しなければならない。  
また、配合量は所定の配合強度が得られる配合量を想定し、その配合を中心として貧配合のもの1種類、富配合のもの1種類の合計3種類程度設定する。

室内配合強度  $X_l = X_f / \alpha_f l$   
 $X_l$  : 室内配合強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $X_f$  : 配合強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
(  $X_f = \alpha_t \times F_c$  )  
 $\alpha_t$  : 割増し係数 (右表より)  
 $F_c$  : 設計基準強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $\alpha_f l$  : 現場/室内強度比

変動係数	採取ヶ所数 (N)	1	2	3	4～6	7～8	9以上
25%	割増係数 ( $\alpha_t$ )	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

※ 変動係数を想定し、7項に規定する抜き取りヶ所数N、合格確率80%とした上表を用いて設定する。

- (3) 小規模建築物における室内配合試験 本工法を小規模建築物に適用する場合に限り、「SSコラム工法施工管理マニュアル」II-12Pの条件に基づき室内配合試験を省略することができる。

4. 施工計画書

本工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書には次の事項を明記する。

- (1) 工事概要
- (2) 工事場所
- (3) 工法概要
- (4) 施工概要
- (5) 使用固化材
- (6) 作業計画
- (7) 施工管理
- (8) 配合計画
- (9) 品質管理
- (10) 安全衛生管理

5. 施工

- (1) 固化材液の充填方法は、掘削時充填方法とする。
- (2) 掘削速度1.0m/分、引き上げ速度1.0m/分以下とする。
- (3) 施工手順は以下の通りとする。

1. コラムの中心位置を出し、その位置に攪拌ロッドの中心がくるように機械をセットする。

2. セットが完了したら攪拌ロッドを回転し、規定の速度で掘削を開始する。

3. 所定の位置まで来たら固化材液を攪拌ロッド先端より注入しながら掘削攪拌を行う。

4. 掘削が完了したら固化材液の注入をやめ、攪拌ロッドを掘削時と正逆回転し50cm以上繰り返しを行う。

5. 逆回転で再攪拌しながら引き上げる。

6. 施工管理

- (1) コラムの鉛直度 改良機本体の傾斜計で管理する。
- (2) 固化材液の作製 水の計量：計量計又は水管計で計測する。  
固化材の計量：袋数又は重量計で計測する。
- (3) 固化材吐出量 流量計で計測し記録する。
- (4) 掘削深度 深度計で計測し記録する。
- (5) 掘削速度 速度計計測し記録する。
- (6) 支持層強度 トルク計で測定し記録する。

7. 現場強度管理試験

- (1) 調査ヶ所数 施工後のコラムより下表の採取ヶ所数に準じて強度管理試験用のコア採取を行うことし、採取したコアの材齢28日における圧縮強度試験結果が下式をクリアしなければならない。  
また、可否の判定は、N箇所（抜取個数）の一軸圧縮強さの平均値X<sub>N</sub>と合格判定値X<sub>L</sub>の大小関係を比較する事で行う。

供試体の採取方法		
改 良 長	採 取 位 置	
	頭 部 コ ア	深 度 コ ア
	採取方法：モールドコア	採取方法：ボーリングコア ：モールドコア
2m以下の場合	50コラムにつき1ヶ所以上	1検査対象群につき1ヶ所以上
2m以上の場合	100コラムにつき1本以上	

\* 頭部コア試験は1ヶ所（1本のコラム）あたり3個のコア採取を基本とする。

\* 深度コア試験については1ヶ所（1本）以上のボーリングコアを実施することとし、その他はモールドコア試験により代用できるものとする。

- (2) 合格判定  $X_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d$

$X_N$  : N箇所の一軸圧縮強さの平均値 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $X_L$  : 合格判定値 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $F_c$  : 設計基準強度 (kN/m<sup>2</sup>)  
 $k_a$  : 合格判定係数 (下表による) (kN/m<sup>2</sup>)  
 $N$  : 検査対象層の抜取箇所数  
 $\sigma_d$  : 設計で想定したコア強度の標準偏差  
 $\sigma_d = V_d \cdot q_{ud}$  (KN/m<sup>2</sup>)  
 $q_{ud}$  : 想定した一軸圧縮強さ (kN/m<sup>2</sup>)  
 $V_d$  : 変動係数

抜取箇所数 (N)	1	2	3	4～6	7～8	9以上
合格判定係数 ( $k_a$ )	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

※ 品質に支障があった場合の処理 品質に支障があった場合は、管理者と協議し適切な判断を下す。

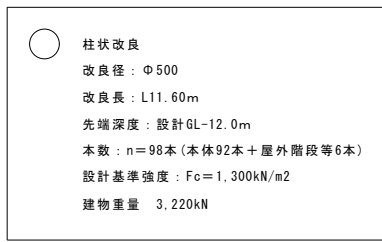
- (3) 小規模建築物における現場強度管理試験 本工法を小規模建築物に適用する場合には、「SSコラム工法施工管理マニュアル」II-28Pの品質検査方法により、品質検査を行ってよいものとする。

8. 施工報告書

工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、監督員に提出する。

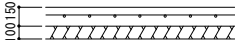
- (1) コラム配置図及び番号
- (2) 施工年月日
- (3) コラム径
- (4) 掘削長
- (5) 掘削深度
- (6) 固化材の使用量
- (7) 品質管理試験結果

工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事				No.	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第1851号 一級建築士登録 第308118号 土田 利行 〒763-8292 岡山市中区平井1091-1 TEL 086-238-8120			
図面名	深層混合処理工法特記仕様書				縮尺	A1:-- A3:--	S-09		
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和5年12月					
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図		
					土田	土田	藤原		



(〇〇)は設計GLからの土間天レベルを示す。  
特記なき土間天は設計GL+50とする。

[illegible]

符 号	土間コンクリート
厚み	150
断 面	
長辺方向	D13-@200(シングル)
短辺方向	D13-@200(シングル)

主筋: 4-D13  
フープ: D10-@200

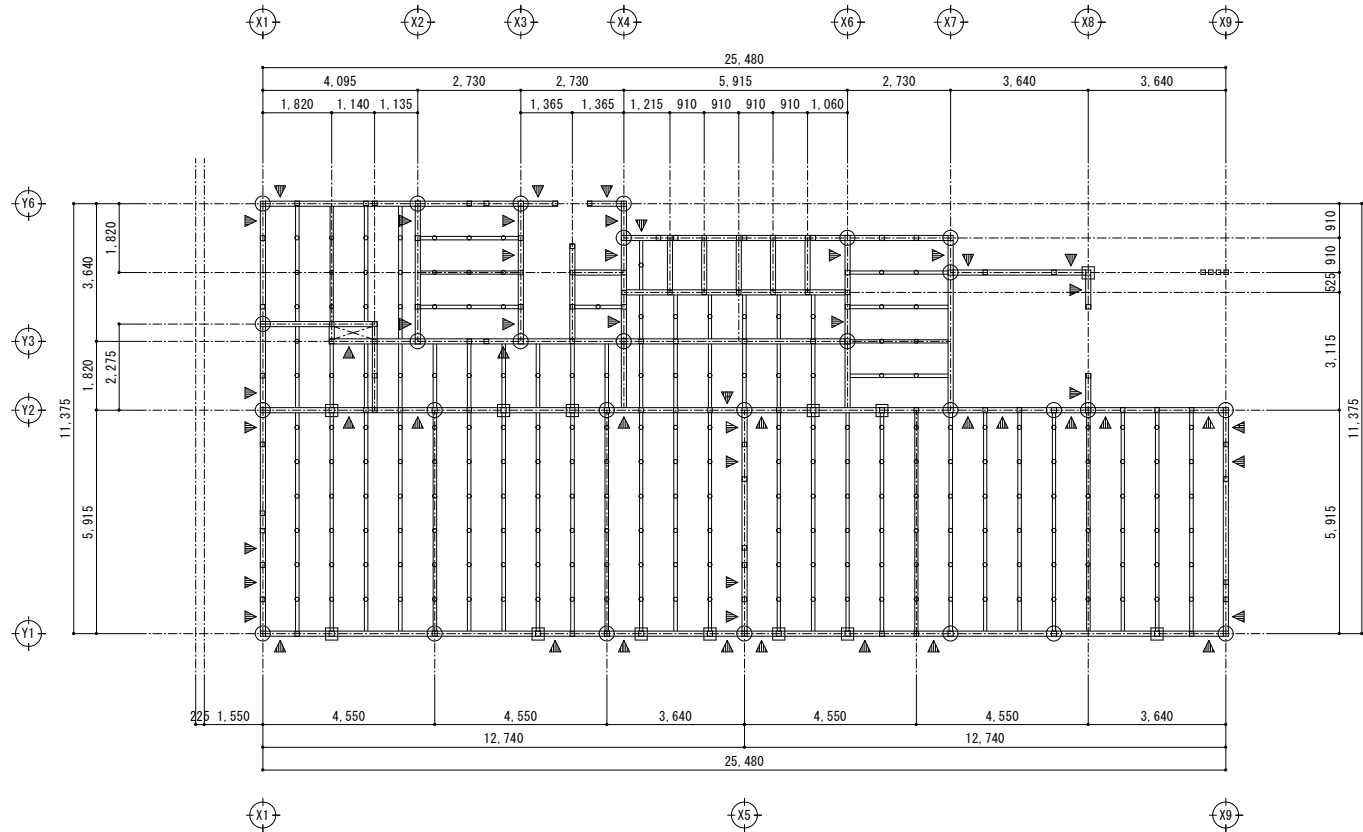
225 225 450

225 225 450

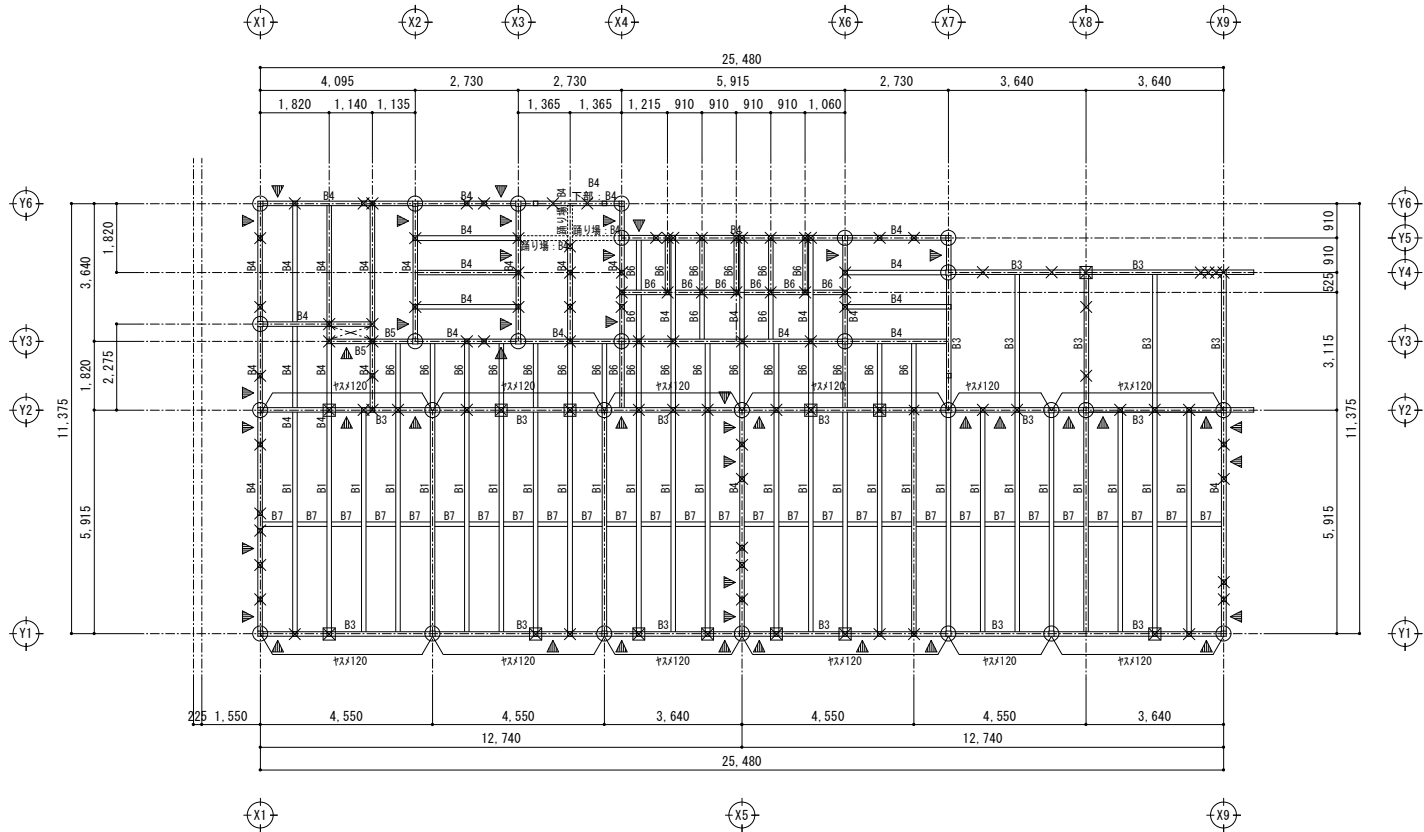
(柱脚根巻き平面)

符 号	FG1	FG2	FG3
B × D	350 × 450	350 × 450	350 × 450
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
上 筋	3-D19	3-D19	3-D19
下 筋	3-D19	3-D19	3-D19
スタラップ	D10-#200	D10-#200	D10-#200
腹 筋	-	-	-
幅止筋	-	-	-
符 号	FG4	FG5	FG6
B × D	300 × 450	300 × 450	300 × 450
位 置	全断面	全断面	全断面
断 面			
上 筋	3-D16	3-D16	3-D16
下 筋	3-D16	3-D16	3-D16
スタラップ	D10-#200	D10-#200	D10-#200
腹 筋	-	-	-
幅止筋	-	-	-
符 号	FG7	FB1	階段詳細図
B × D	300 × 450	-	-
位 置	全断面	全断面	-
断 面			
上 筋	3-D16	-	-
下 筋	3-D16	-	-
スタラップ	D10-#200	-	-
腹 筋	-	-	-
幅止筋	-	-	-

工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事			N.O. S-10	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山市知事登録 第1851号 一般建築士登録 第308118号 土田 利行 〒103-8382 岡山市中区井井1091-1 TEL. 086-238-8120
図面名	基礎図面・ｽﾗﾌﾞﾘｽﾄ・地中梁ﾘｽﾄ				
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和5年12月	
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認
					土田
					土田
					藤原



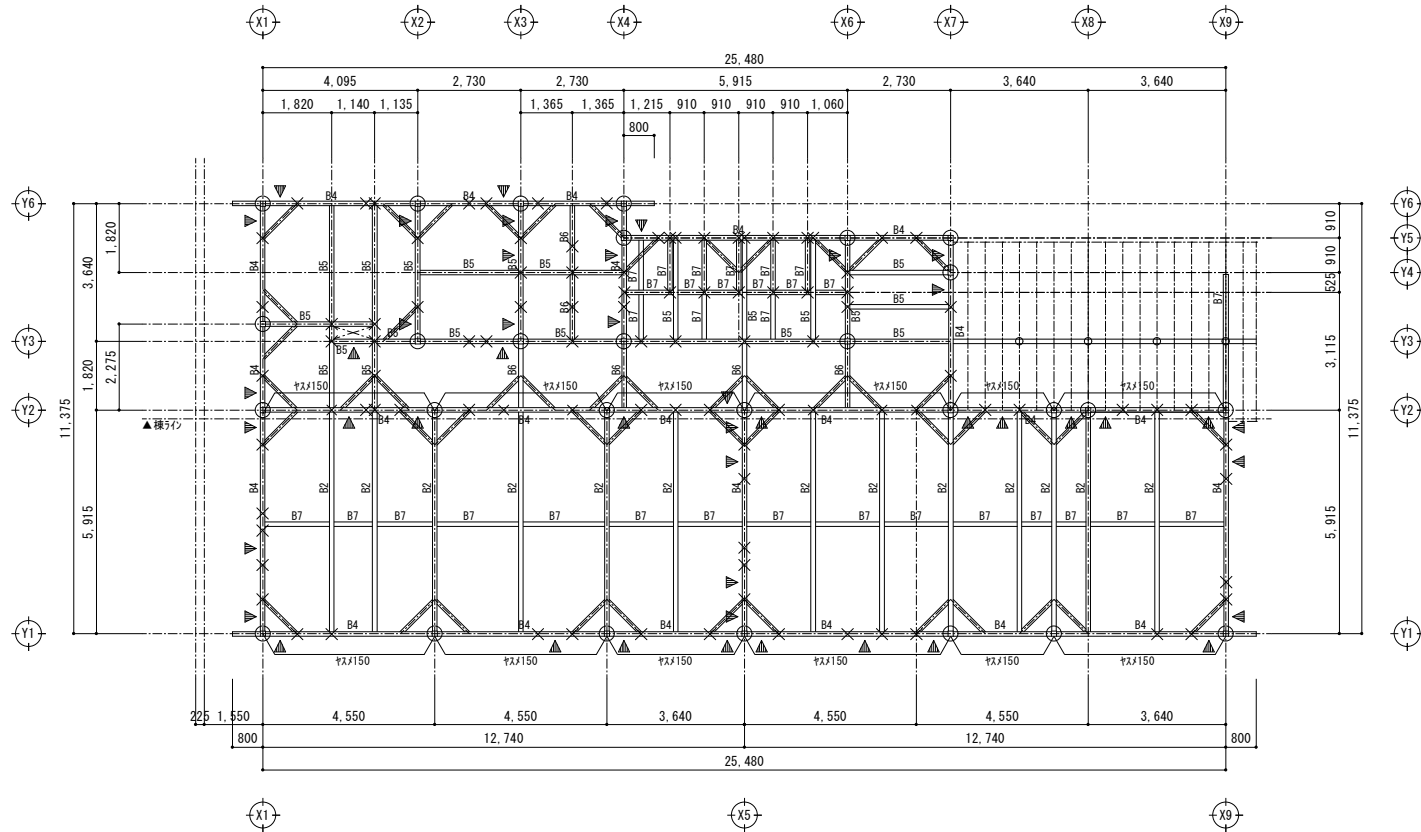
□ 1階管柱 120×120  
 □ 1階管柱 135×135  
 ○ 通し柱 135×135  
 ▲ 筋かい(たすき)45×90



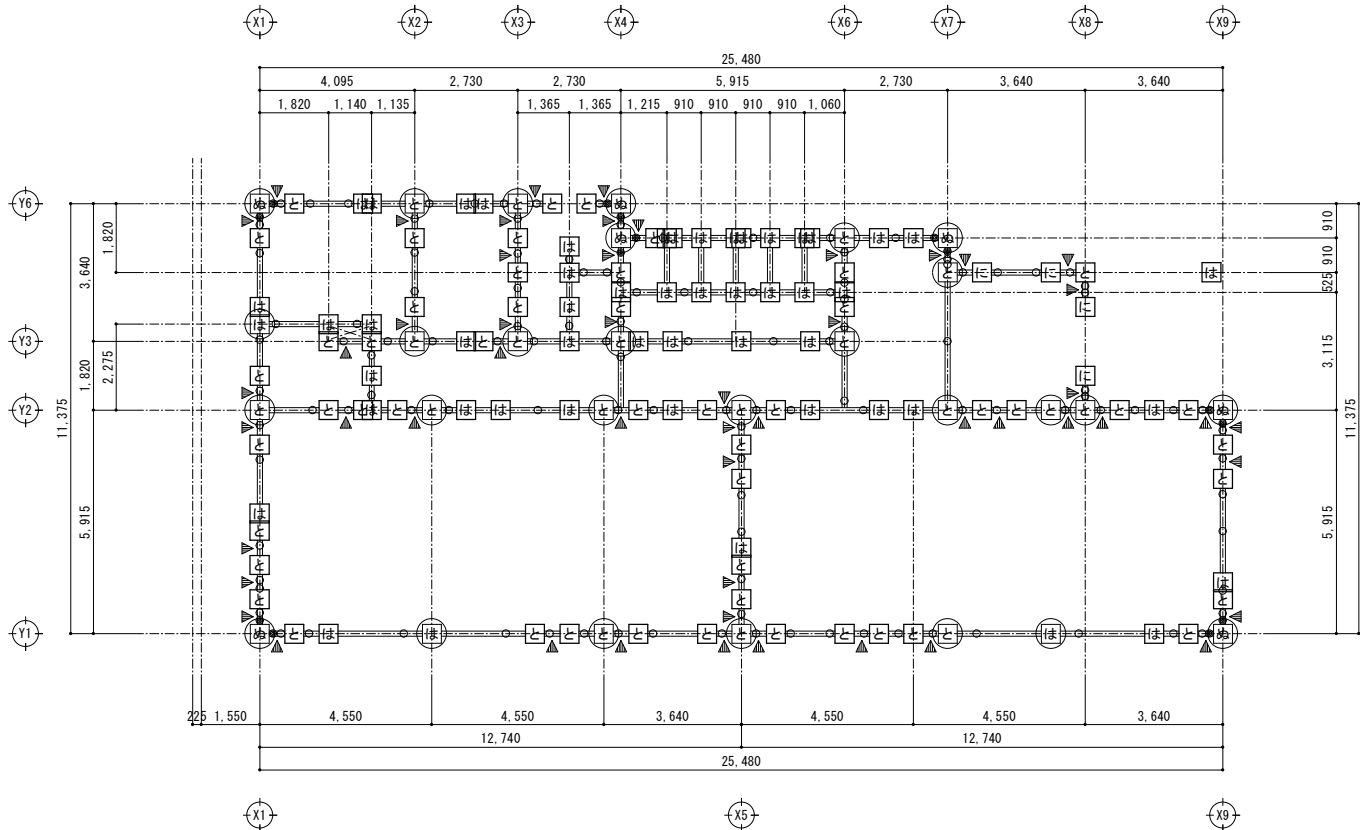
×	1階管柱	120×120
☒	1階管柱	135×135
□	2階管柱	120×120
○	通し柱	135×135
▲	筋かい(たすき)	45×90

[illegible]

工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事			N O .	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第1851号 一般建築士登録 第308118号 土田 利行 〒700-8287 岡山市中区平井1091-1 TEL 086-238-8120
図面名	1・2階床伏図			縮尺	1/100 A3:1/200
岡山市	都市整備局	住宅・建設部	公共建築課	令和5年12月	
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認
					検印
				土田	土田 藤原



工事名 岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事				No. S-12		株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第185号 一級建築士登録 第308118号 土田 利行 〒700-8387 岡山市中区平井1091-1 TEL. 086-238-8120	
図面名 軒図、小屋図		縮尺 A1:1/100 A3:1/200		令和5年12月			
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課		課長 課長補佐 係長 課員		担当者		承認	
						土田	
						土田	
						藤原	



- × 下階柱
- 管柱 120□、135□
- ◻ 通し柱 135□
- ▲ 筋かい(たすき)45×90

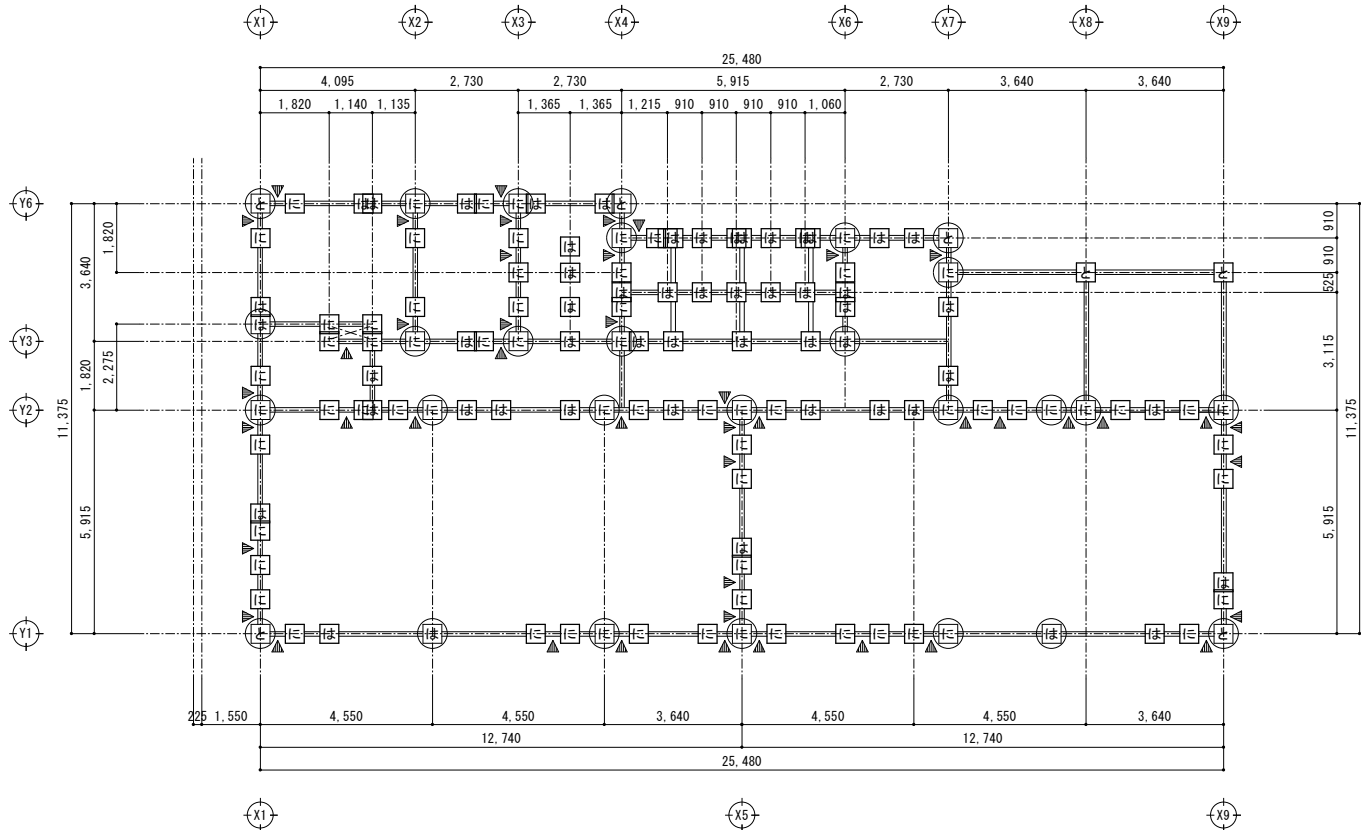
1階床伏図 1/100

【アンカーボルトの設置は@2,700以下とする】

- アンカーボルトM16 L=1,000(埋込長=360以上(H D 25))
- アンカーボルトM12 L=450(埋込長=250以上)

【接合金物リスト】 (接合金物は「Z・C・D・Sマーク表示金物」を使用すること)

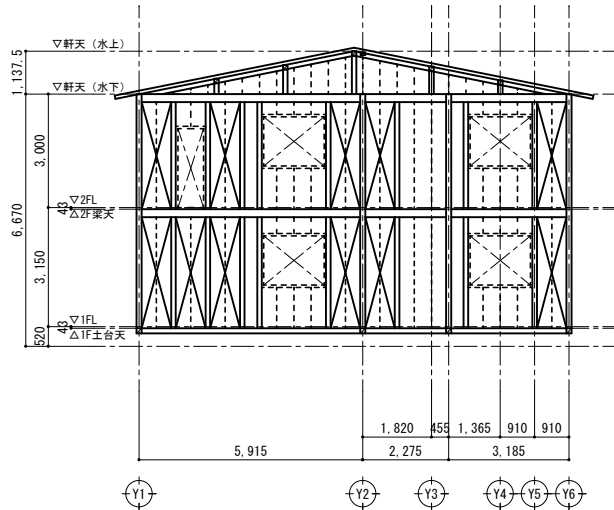
符号	必要耐力	接合金物の使用例
い	0 k N	短ほぞ差し 又は かすがい打ち
ろ	3.4 k N	長ほぞ差し込み栓打ち 又は かど金物 (CP・L) ZN65-5
は	5.1 k N	かど金物 (CP・T) ZN65-5 又は 山形プレート (VP) ZN90-8
に	7.5 k N	羽子板ボルト(M12) 又は 短冊金物(M12)
ほ	8.5 k N	羽子板ボルト(M12+ZS50) 又は 短冊金物(M12+ZS50)
へ	10.0 k N	ホールダウン金物 (HD-B10、HD-N10、S-HD10)
と	15.0 k N	ホールダウン金物 (HD-B15、HD-N15、S-HD15)
ち	20.0 k N	ホールダウン金物 (HD-B20、HD-N20、S-HD20)
り	25.0 k N	ホールダウン金物 (HD-B25、HD-N25、S-HD25)
ぬ	30.0 k N	ホールダウン金物 (HD-B15、HD-N15、S-HD15) を2枚



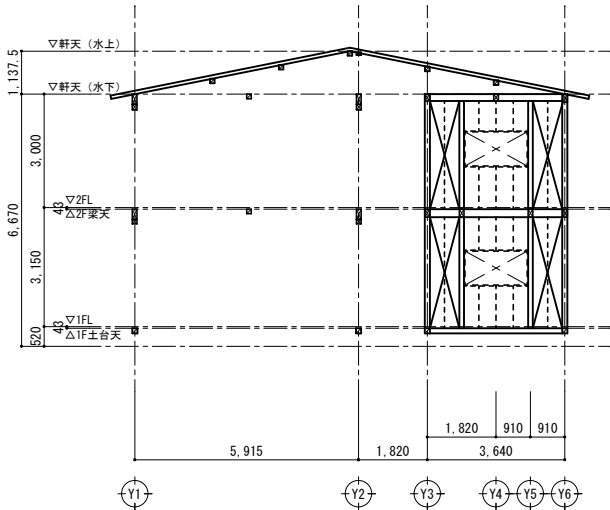
- 管柱 120□、135□
- ◻ 通し柱 135□
- ▲ 筋かい(たすき)45×90

2階床伏図 1/100

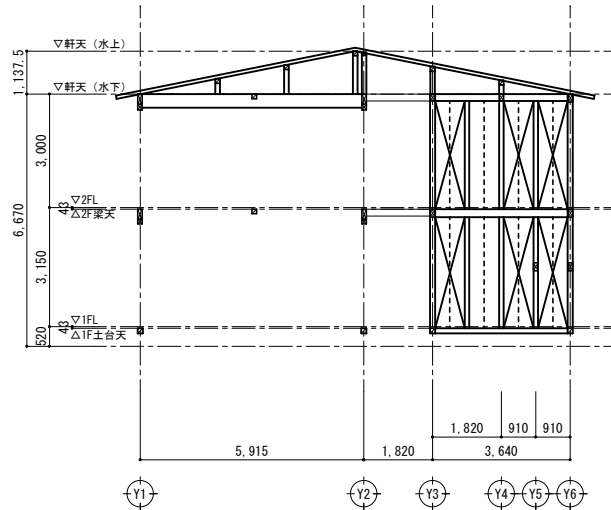
工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事				No. S-13	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第1851号 一級建築士登録 第308118号 土田 利行 〒763-8282 岡山市中区平井1091-1 TEL 086-238-8120		
図面名	金物伏図			縮尺		K1:1/100 A3:1/200		
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課			令和5年12月					
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図	
					土田	土田	藤原	



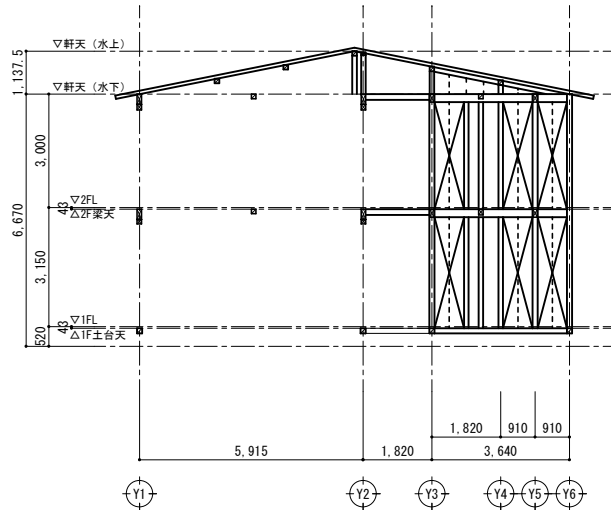
X1通り軸組図 1/100



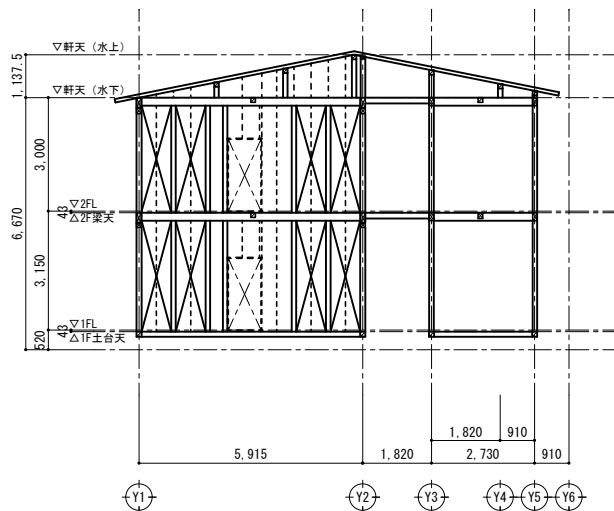
X2通り軸組図 1/100



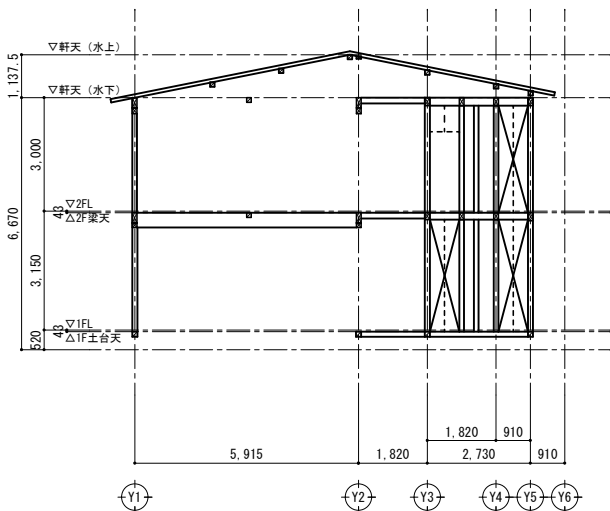
X3通り軸組図 1/100



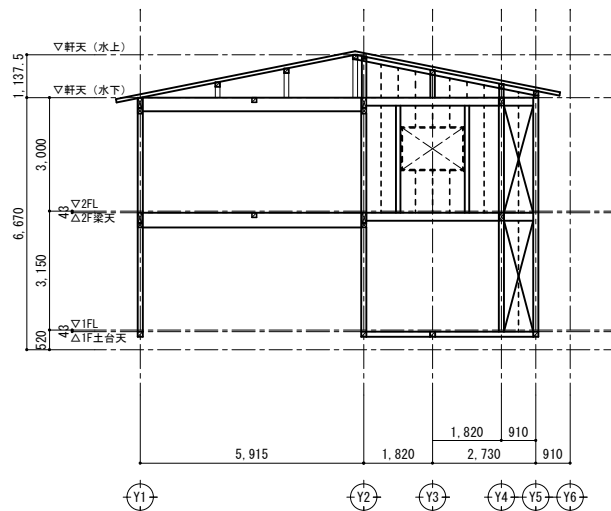
X4通り軸組図 1/100



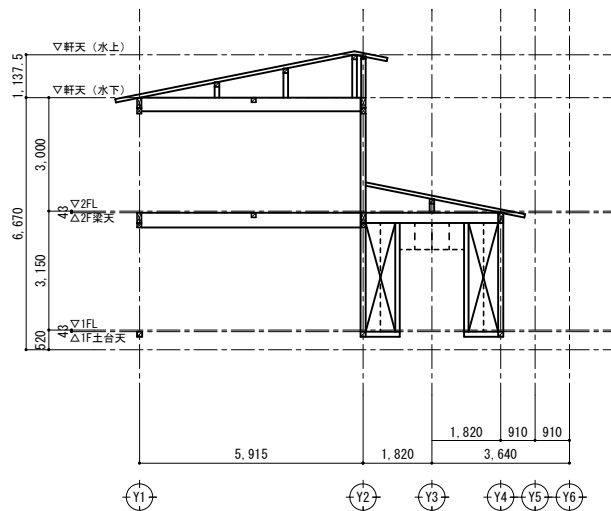
X5通り軸組図 1/100



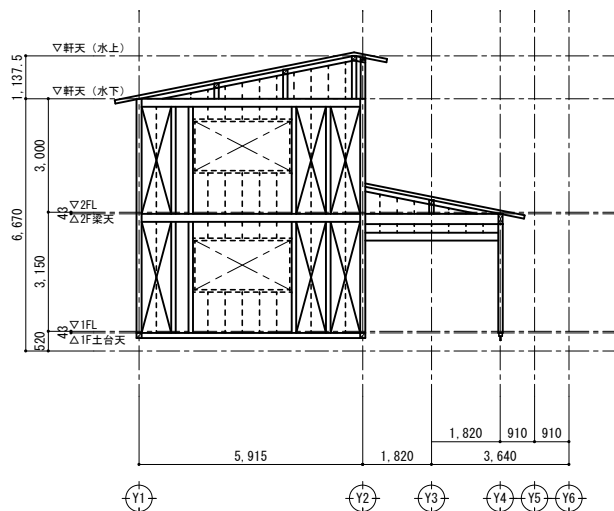
X6通り軸組図 1/100



X7通り軸組図 1/100

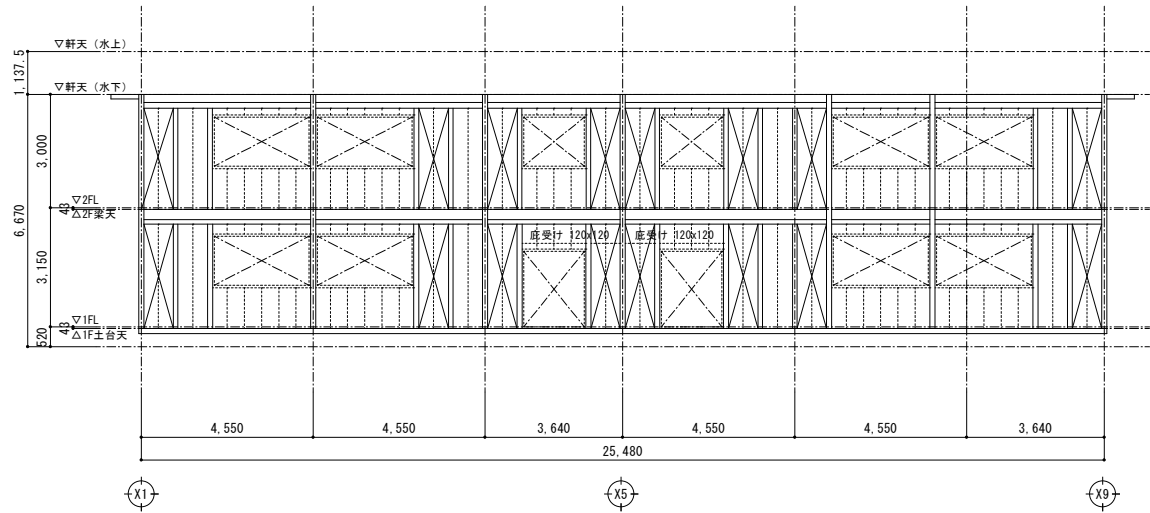


X8通り軸組図 1/100

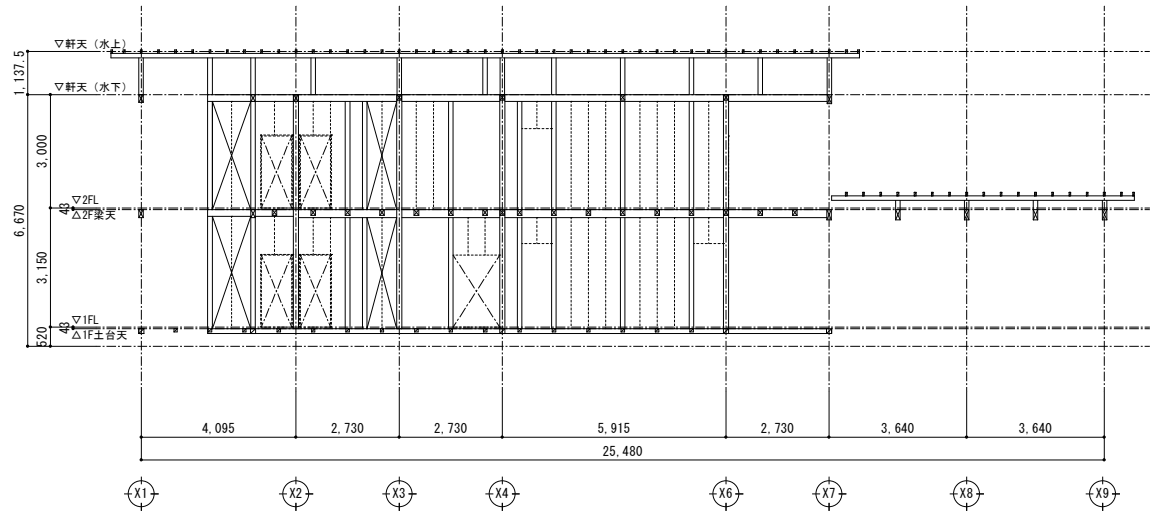


X9通り軸組図 1/100

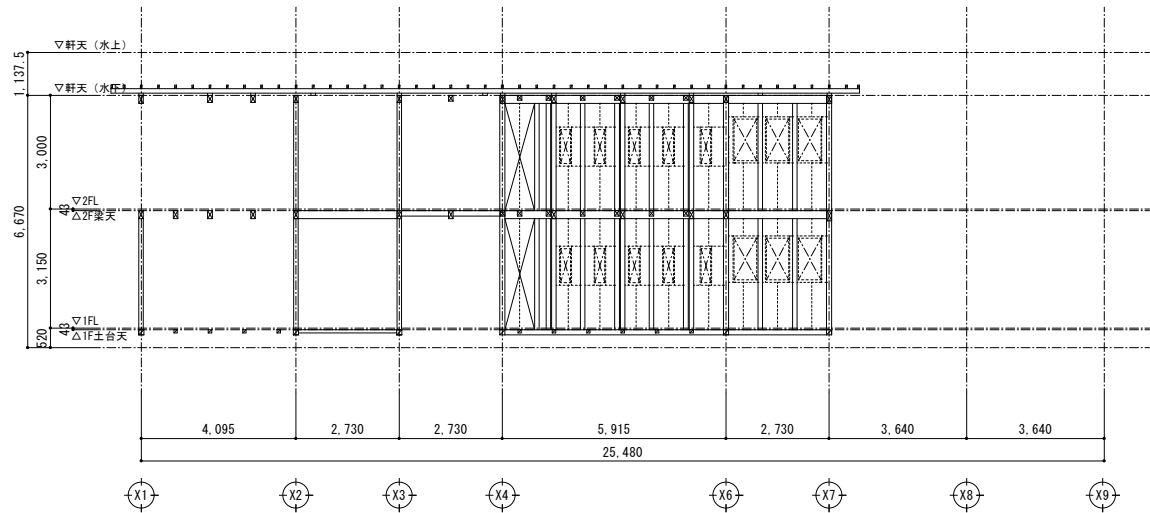
工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事				No. S-14	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第1851号 一級建築士登録 第308118号 土田 利行 〒703-0232 岡山市中区平井1091-1 TEL 086-238-8120		
図面名	軸組図 (1)		縮尺	A1:1/100 A3:1/200				
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課					令和5年12月			
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図	
					土田	土田	藤原	



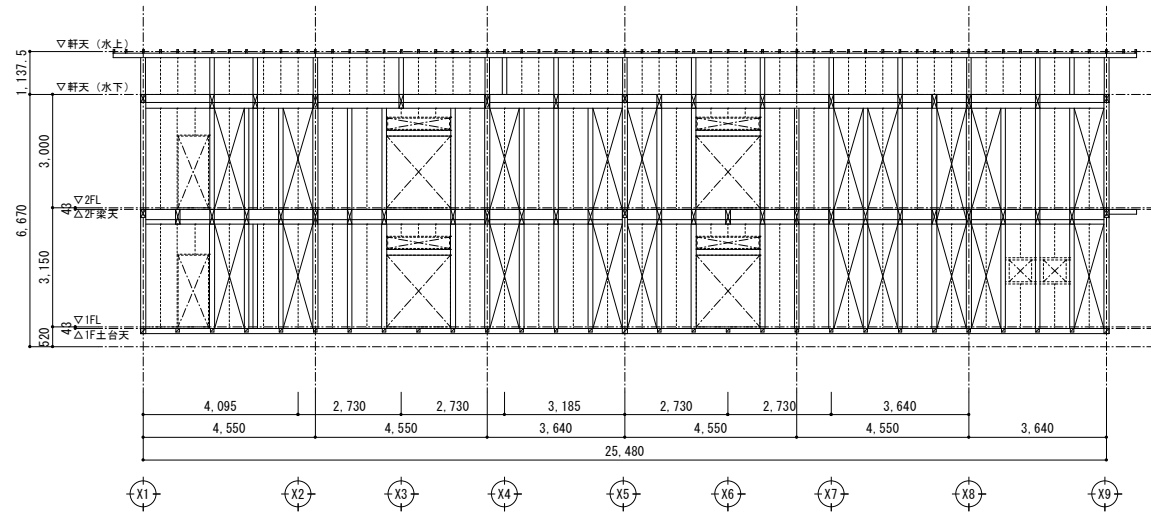
Y1通り軸組図 1/100



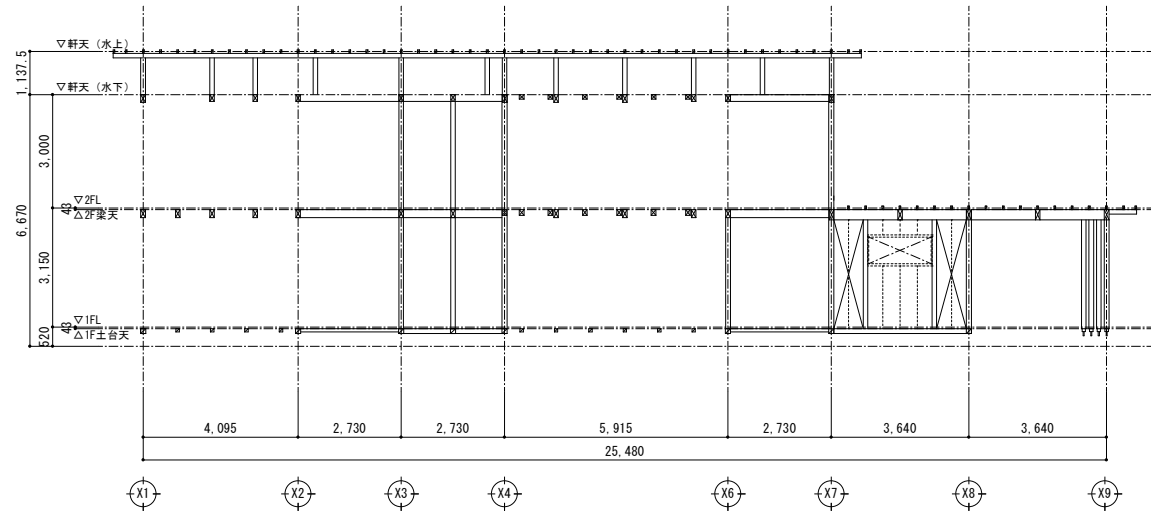
Y3通り軸組図 1/100



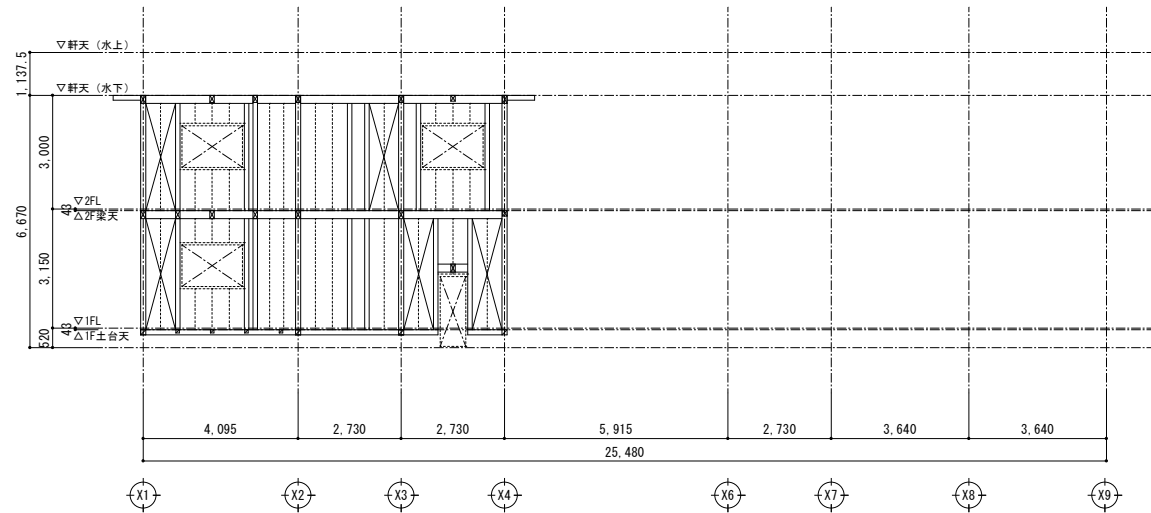
Y5通り軸組図 1/100



Y2通り軸組図 1/100



Y4通り軸組図 1/100



Y6通り軸組図 1/100

工事名	岡山市立横井小学校内児童クラブ室改築工事			N o .	株式会社やなぎ建築設計事務所 岡山県知事登録 第1851号 一般建築士登録 第308118号 土田 利行 〒763-8292 岡山市中区平井1091-1 TEL 086-238-8120		
図面名	軸組図 (2)			縮尺	A1:1/100 A3:1/200		
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和5年12月			
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図
					土田	土田	藤原